

**小さなアートの複合施設から大きな可能性を！
－マイクロレジデンスの調査研究（中間報告）－**

“The Macro Possibilities of a Micro Art Space
– An Interim Report on Microresidence Research”

2012 年 6 月

Youkobo Art Space

遊工房アートスペース

東京

<目次>

	Page
はじめに	-1
I. マイクロレジデンスの定義の試み	-2
II. マイクロレジデンスの考察—アンケート調査分析	
1. 調査目的とその概要	-3
2. 調査分析結果	-4
3. 要約	-16
III. マイクロレジデンス、そのネットワークの可能性	-18
付録	
I. ルイスとサンドラのエッセー	-付 1
II. 調査関連データ	
1. 調査対象機関リスト	-付 2
2. 調査用紙「マイクロレジデンスリサーチ」	-付 6
3. 調査回答機関リスト	-付 10
III. 「AIRs アーティスト・イン・レジデンスほんとうのはなし」フォーラム記録（ダイジェスト）	
1. Vol.1 : 2005.12	-付 11
2. Vol.2 : 2011.12	-付 17
IX. 調査（AIR とマイクロレジデンス）研究メンバリスト	付-21

はじめに

Res Artis（以降 RA）メンバーとして 10 年、小さいながらもアーティスト・イン・レジデンス（以降 AIR）の運営責任者として、さまざまな運営実態を知ることになった。AIR はアーティストの活動拠点として一義的に存在するものであるが、その存在理由はさまざま、主として事業主体となる運営母体の意図で決まる。芸術系の大学やアカデミーであれば、美術教育、芸術家養成の延長線上にある。自治体であれば、地域活性化やまちづくり、観光誘致等の側面も出てくる。ただ、アーティストが自ら運営するものは、アーティストの活動それ自身に焦点が当てられている。そして、滞在の地における生活者としての立ち位置が明確なことが共通事項となっている。

遊工房アートのスペースの AIR プログラムは、アーティストが中心となり独自に運営するもので、レジデンスの名の通り安心して滞在生活がおくれ、快適な制作環境が整っていることを常に意識してアーティストと接してきた。最長 6 カ月の滞在制作を原則として、夫婦や、子連れでの利用も可能である。そして、地域のアートセンター的な活動を並行して展開していることから、地域活動への参画もアーティストの希望により可能としている。

RA 世界総会（2 年に 1 度の開催）に毎度参加して考えたことは、AIR 運営責任者と、その周りの関係者（アーツ・カウンシル、財団、教育機関、そしてアーティスト等）との関係、そして、それぞれの国の異なる社会背景から、共通の話題は、文化芸術論であったり、文化経済学からホットな芸術の話題が中心で、RA メンバの 1/4 を占める、ここでいうマイクロ・レジデンスの存在について、これまでに語られたことがあるだろうか？

このような背景から、2011 年夏、その実態を探る調査を開始した。本報告書はその中間まとめであり、マイクロレジデンス実践者などとの今後の議論によりさらなる発展が図られることを願っている。

村田達彦

遊工房アートのスペース

マイクロレジデンスの語源：

この用語は、2005 年、NY のアーティスト、ルイスとサンドラが、遊工房アートのスペース滞
在制作の経験エッセイを寄せてくれたことによる。

付録Ⅰ：ルイスとサンドラのエッセー

Youkobo Art Space: A Micro-Flexible Arts Community In Tokyo

A Brief Essay of Appreciation by Luis Record and Sandra Gibson, 2005

第1章 マイクロレジデンスの定義の試み

アーティスト・イン・レジデンスの世界規模のネットワークである Res Artis の多数のメンバーが繋がり、アーティスト・イン・レジデンス事業が世界中で展開されている。2012 年 4 月現在、加盟機関は 400 件を超えている。大規模アート機関のレジデンスだけではなく、様々な形態、様々な規模のレジデンスが存在している中で、どのようにアーティスト・イン・レジデンスを定義すれば良いのか？レジデンスはどのような機能を持っているのか？どのような利点があるのか？それらの答えはそれぞれのレジデンス、それぞれのアーティストによって異なる。

このような問題に取り込むには、それぞれのレジデンスの環境、社会的な背景との差異を検討することが重要だ。そして夫々の文脈において、アーティストに対する社会的な意識、社会におけるアーティストの役割、アーティスト活動の重視、といった点を再考することが必要であろう。

今日、芸術・文化的な交流を促進する為にアーティストとアート団体が独自にアートをスペースを作る動きが目立つ中で、インディペンデント、アーティスト・ラン、グラスルーツのレジデンスが世界中で広がっている。成長する小規模レジデンスは、AIR プログラムに対して新しい方向性を示しているかのようだ。

このようなレジデンスの可能性や重要な役割を理解した上で、マイクロレジデンスは、様々な小規模グループや団体と繋がり、お互いに支え合い、コラボレーションできるプラットフォームを作る動きもある。

このリサーチは遊工房アトスペースで開始されたが、それぞれのマイクロレジデンスの仲間が、おのおの責任を持つような分散型ネットワークを通し、個々の主張と力を出し合い、色々なディスカッションを持つことが大切だ。

マイクロレジデンスとは？

- ・小規模（施設）
- ・小規模（予算）
- ・アーティスト・ラン
- ・インディペンデント
- ・グラス・ルーツ（草の根）で結ばれている
- ・柔軟
- ・アーティストへのサポートが良い
- ・人間関係を大切にしている

「マイクロレジデンス」という言葉の曖昧さを認識しながら、この基準を全部満たしてなくても、大部分を満たしたら「マイクロレジデンス」として捉えられると考えるが、主観的な用語のまま、それぞれの団体が自分の立場を自分で判断することで始めたい。マイクロレジデンス、そのマイクロのマクロな可能性に焦点を当ててみる。

第2章 マイクロレジデンスの考察 — アンケート調査分析

2011年8月から2012年6月の期間、遊工房アーツスペースは「マイクロレジデンス」という定義にあてはまると思われる、世界164軒のレジデンスプログラムにアンケートを送り、調査を行った。

1. 調査目的と調査概要

調査の目的は、世界中に存在する小規模でインディペンデントのレジデンスプログラムについて、アーティストに対して提供しているサポート、レジデンス・プログラムの特徴、各レジデンスの「マイクロレジデンス・ネットワーク」に対するビジョンなど、詳しい内容と情報を得ること。

・調査対象機関について

以下のネットワークを通して知りえた情報をもとに当方の判断で調査依頼をした。

調査対象機関の内訳は付録リストによる。付録Ⅱ-1：調査対象機関リスト

-世界のネットワーク

- ・ Res Artis <http://www.resartis.org/en/>
- ・ TransArtists <http://www.transartists.org/>
- ・ Trans Cultural exchange <http://www.transculturalexchange.org/>
- ・ Intra Asia Network <http://intraasianetwork.org/>
- ・ Triangle Arts <http://www.trianglearts.org/>

-日本のネットワーク

- ・ AIR-J(国際交流基金によるデータベース) <http://air-j.info/>
- ・ J-AIR Network <http://www.endeavor.or.jp/j-airnet/>

-個人のネットワーク

- ・ 遊工房アーツスペース・スタッフのネットワーク
- ・ 遊工房アーツスペース滞在作家の紹介
- ・ 他の協力機関の紹介

・調査項目について

調査項目は調査用紙による。付録Ⅱ-2：調査用紙「マイクロレジデンスリサーチ」

・調査データについて

164軒への調査依頼から、ヨーロッパ、アメリカ大陸、アジア、オセアニアから計30軒の回答を得た。この中間報告では、この回答からのまとめと分析を実施した。結果は、

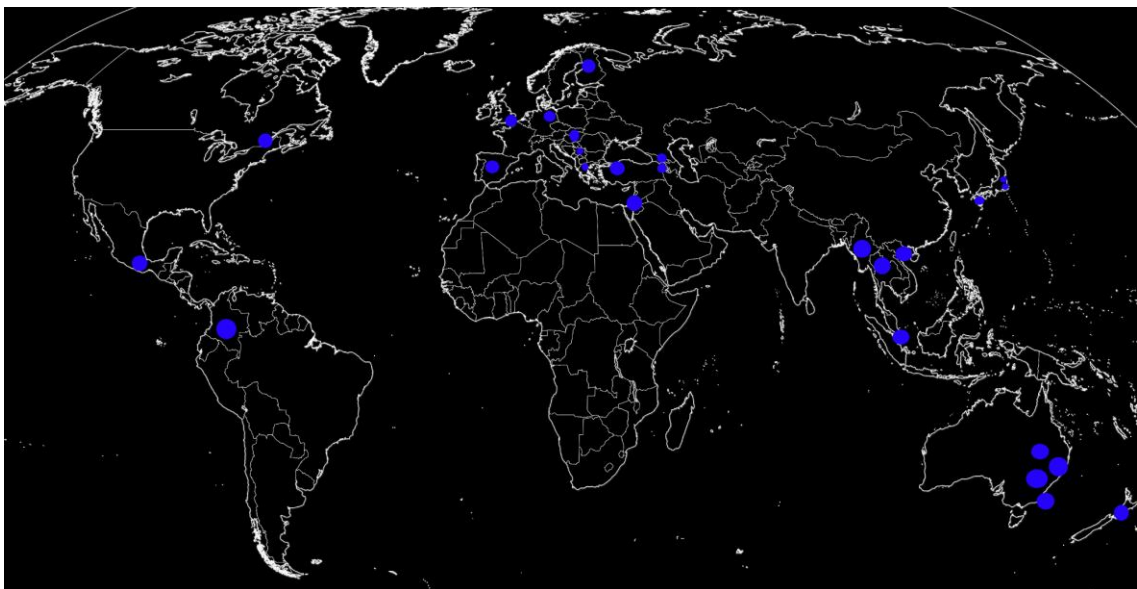
マイクロレジデンスの普遍的な傾向を示すものではない。又、少数のデータソースには含まれない地域も多く、あくまで限定的な調査になるが、30 軒から協力を得たことで、世界の様々な場所、様々な状況の中で活動しているマイクロレジデンスの情報が集められた。この調査結果が、アーティスト・イン・レジデンスの多様性、相違点、共通項に対する意識を高め、マイクロレジデンスの存在とその重要な役割を探究するための、第一歩となることを願う。

アンケートではまた、マイクロレジデンスのネットワーク構想への興味を尋ね、ネットワークの機能に対する意見を得た。それぞれの団体の回答を参照しながら、今後のマイクロレジデンス・ネットワークをどのように展開したら良いか、深く検討したいと考えている。

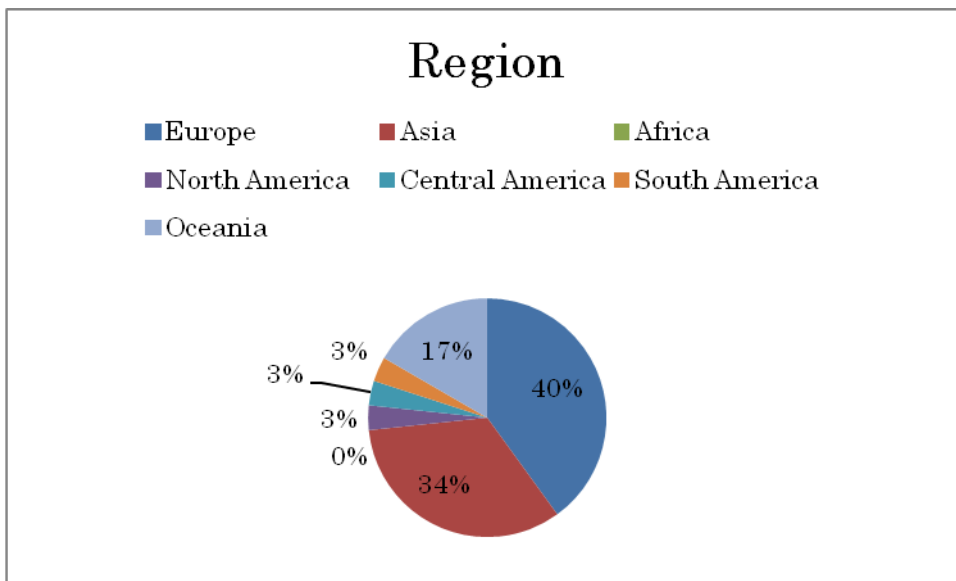
調査回答機関の内訳は付録による：付録Ⅱ－3：調査回答機関リスト

2. 調査分析結果（30 軒のアンケート回答より）

回答機関の地域別、運営組織のタイプ、滞在期間の長さ・運営する会期、活動対象や年齢制限、作家への支援項目内訳、同時に受入れる作家数、運営資金の資源・規模、作家の選考方法、広報の実態、その他、調査項目に対応した分析を円グラフで表した。また、集計が困難な回答に関しては、最後に、その他の質問事項としてまとめた。

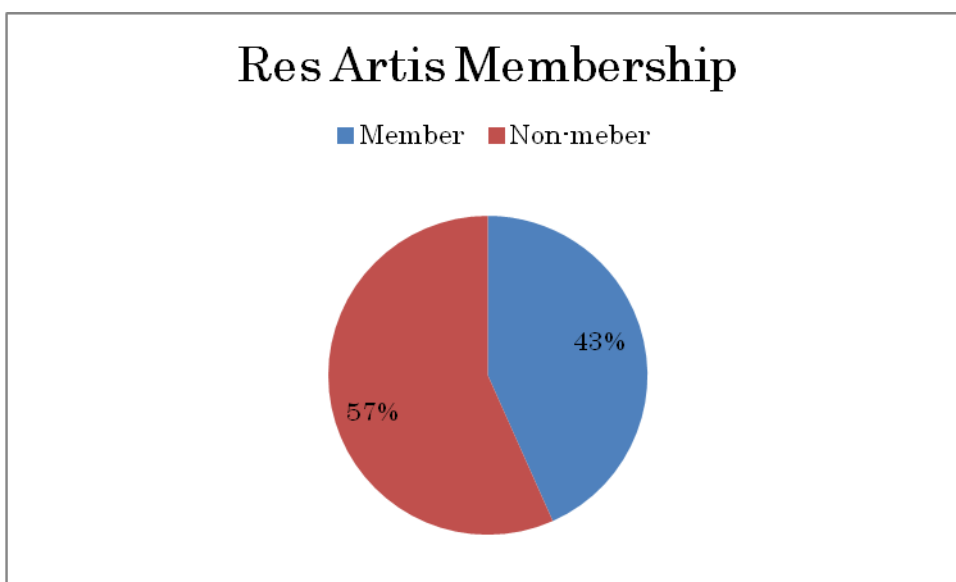


・ 地域別



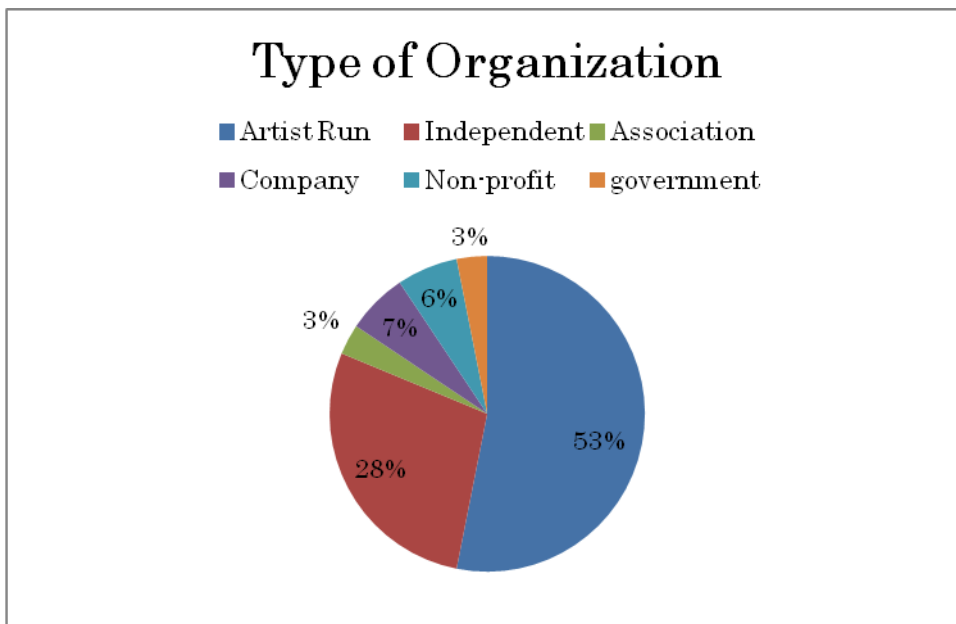
回答があったレジデンスは、地域別にヨーロッパ、アジア（日本が半分を占める）オセアニアが主で、アメリカは北・南からは少数、アフリカ地域からの回答はなかった。

・ ResArtis 会員 ・ 非会員



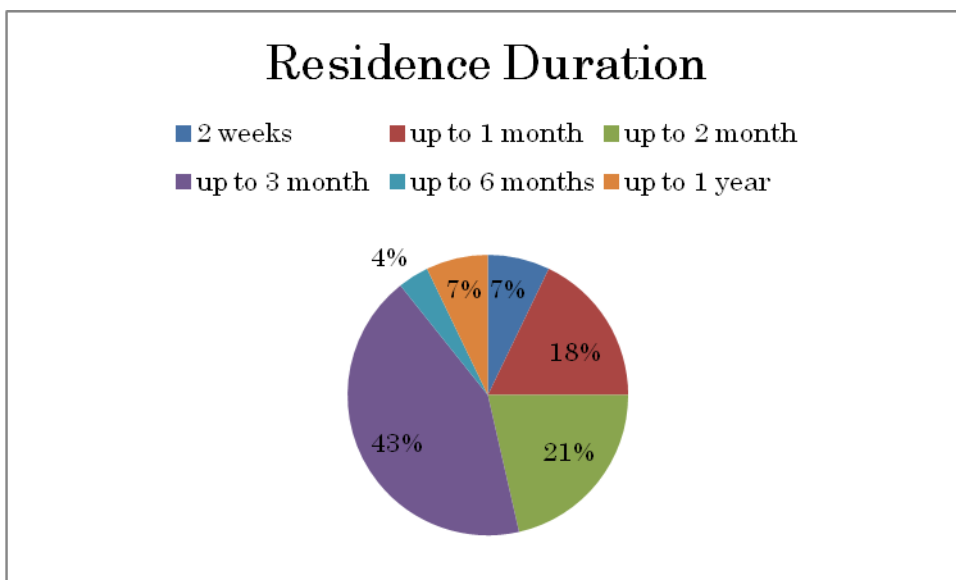
回答のあった 30 軒の内 13 軒は Res Artis のメンバー。

・運営組織のタイプ



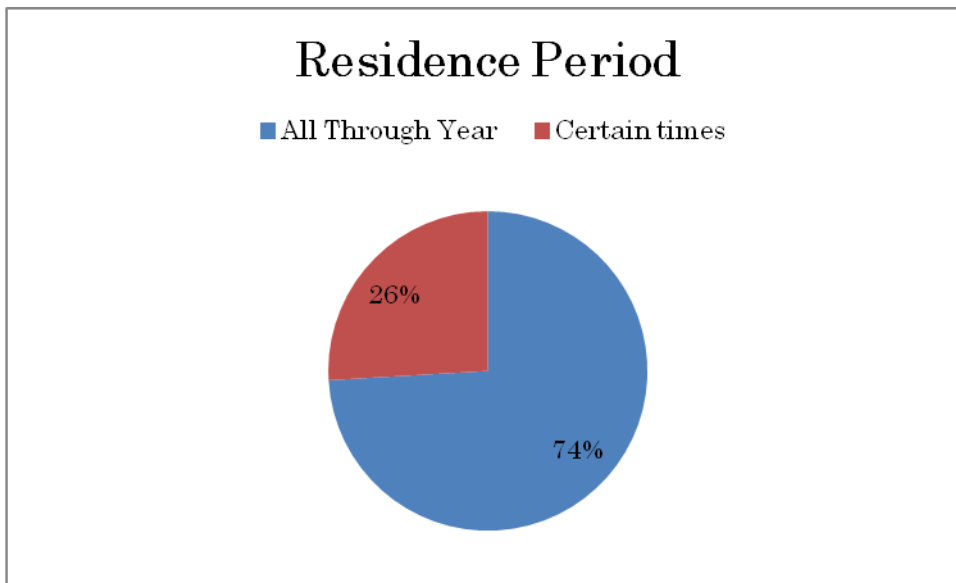
組織の形態はアーティスト・ラン、或いはインディペンデントが過半数で、アンケートに回答した団体は、特にアーティスト・ランへの意識が高いと言える。

・滞在可能期間



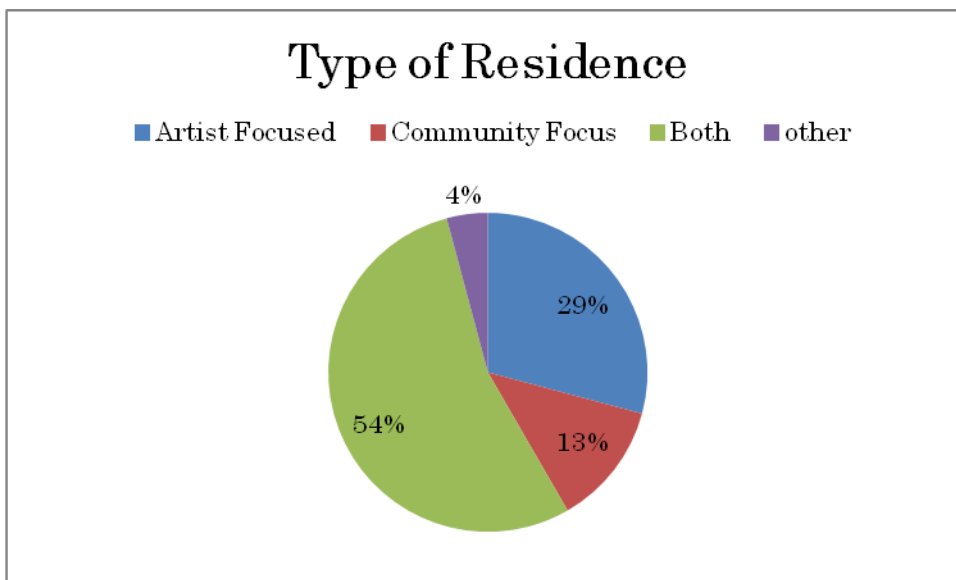
3 ヶ月滞在期間が主流で、1、2 ヶ月の期間も多数を占める。

・ プログラム運営の時期



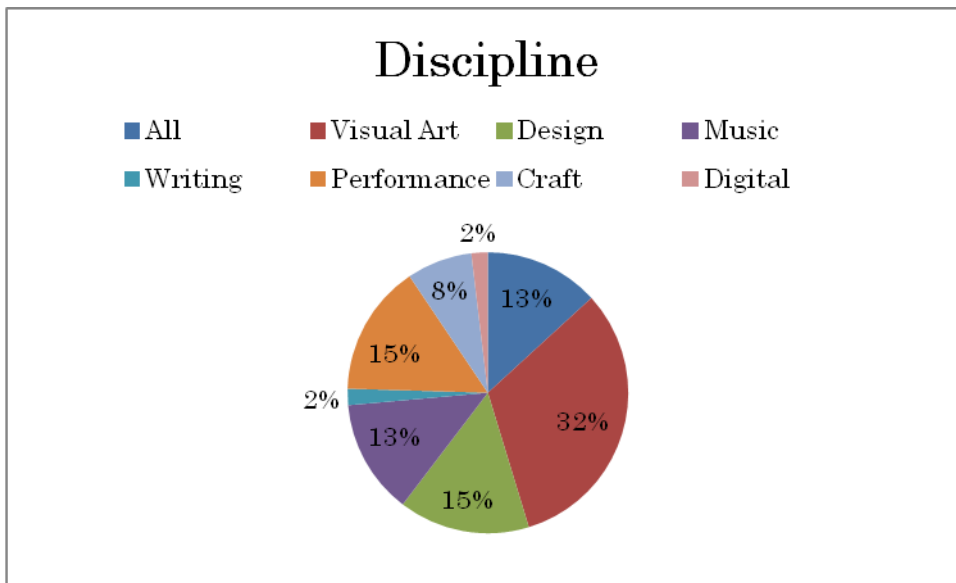
年間を通してプログラムを運営するレジデンスが7割を超えている。

・ 活動プログラムのタイプ



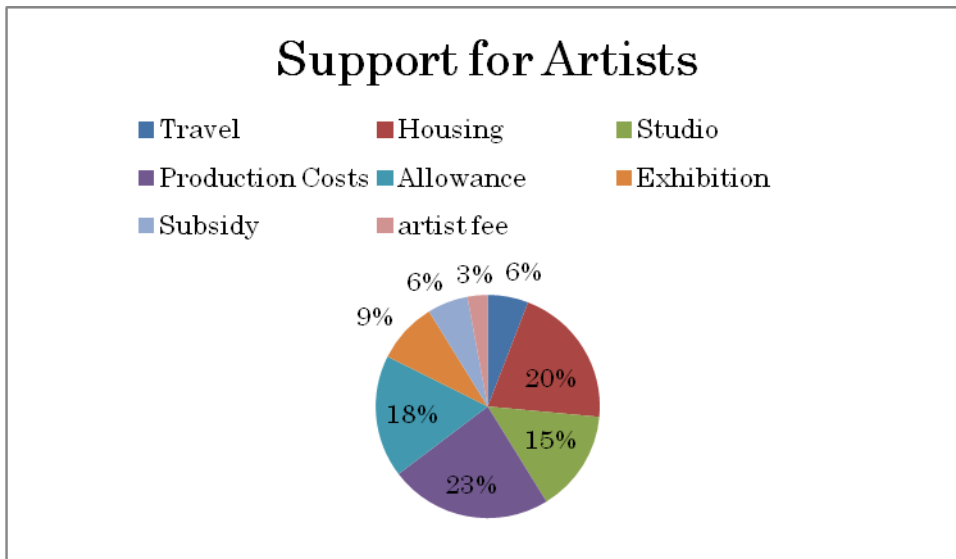
半数を超えるレジデンスが、プログラムの対象はアーティストと地域のコミュニティーであるとしている。前者は全体の約3割、後者は約1割を占める。

・活動の分野



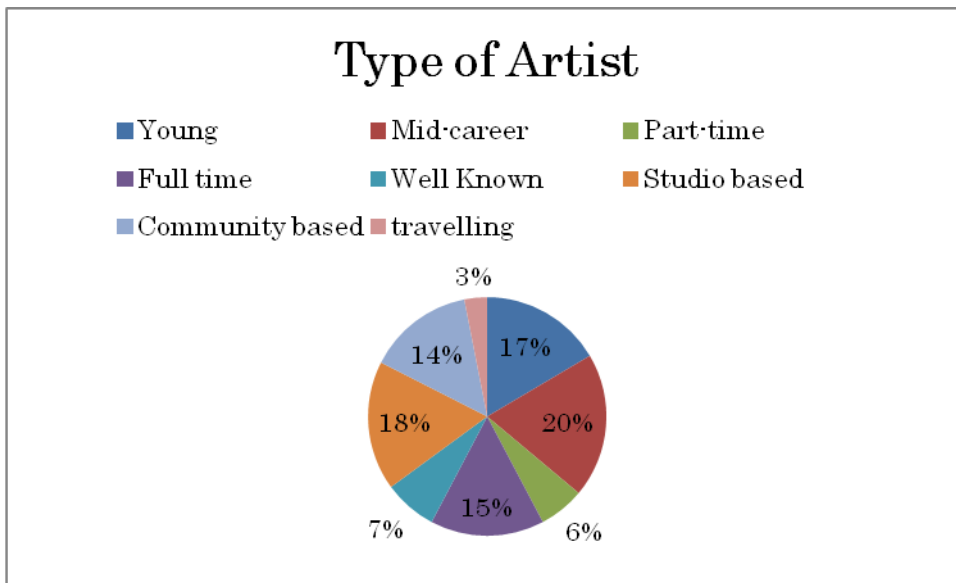
滞在する芸術家の活動分野は、ヴィジュアルアートを中心に、デザイン、音楽、文芸、パフォーマンスと多岐に渡る。

・作家への支援項目



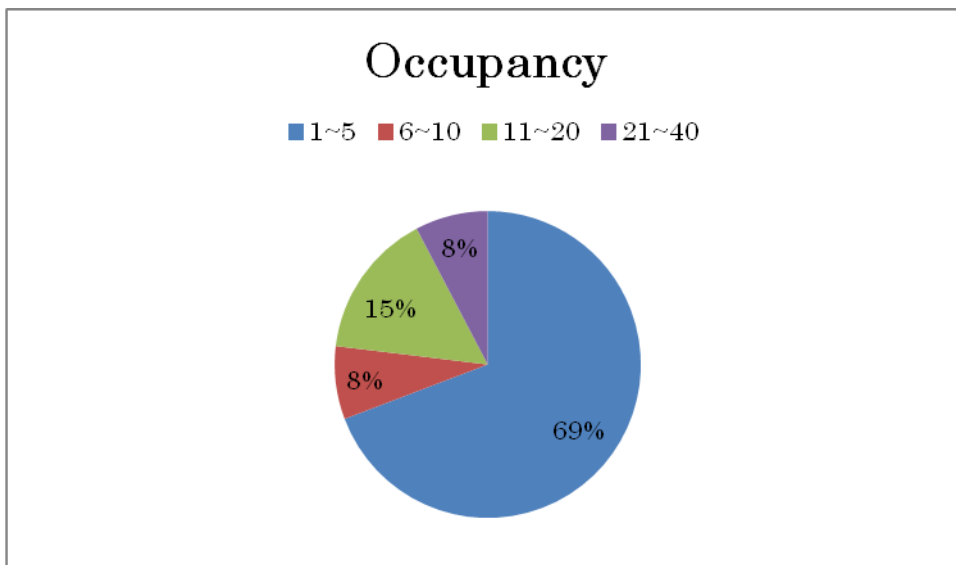
アーティストへの金銭面のサポートは、製作費の補助が最も大きく、続いて、滞在費、生活費、スタジオ利用費へと向けられている。

・ 活動作家の特徴



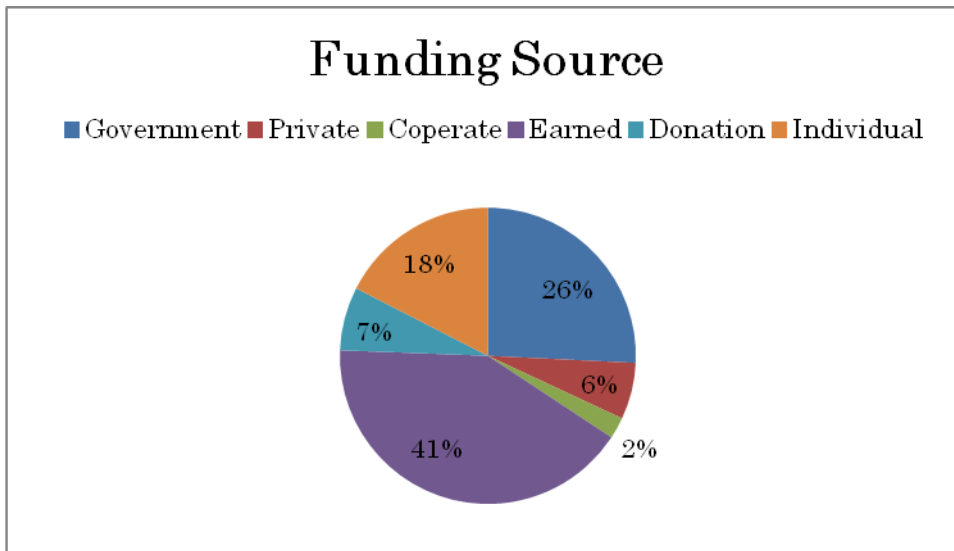
様々なアーティストがレジデンスプログラムに参加しており、中堅の作家を筆頭に、スタジオでの制作を主とするアーティスト、若手作家、フルタイムで作家活動を行うアーティスト、地域のコミュニティーを活動の基盤とするアーティストと続く。

・ 作家受入の規模



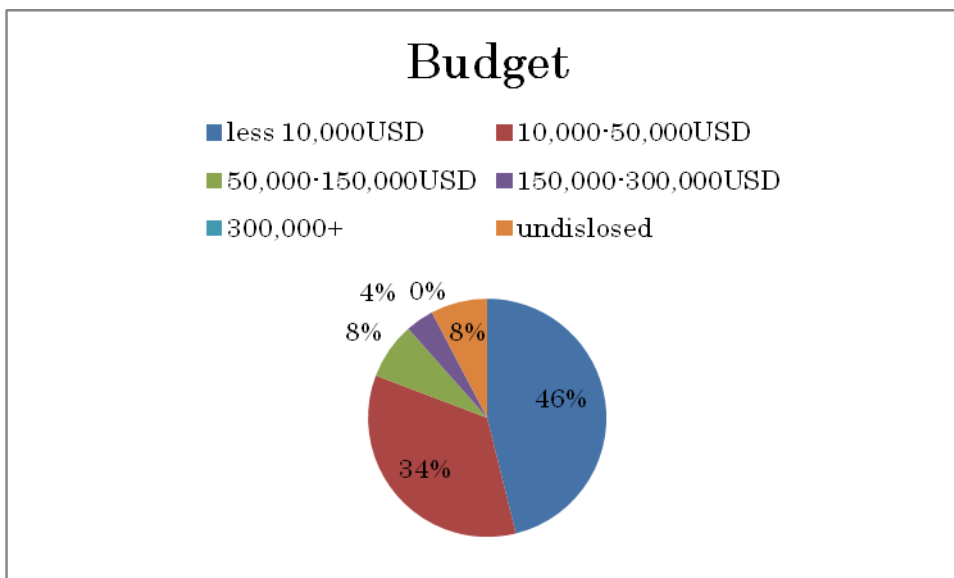
大部分のレジデンスは、一度に少数（１～５名）の作家の滞在を受け入れる体制をとっている。

・運営資金の資源



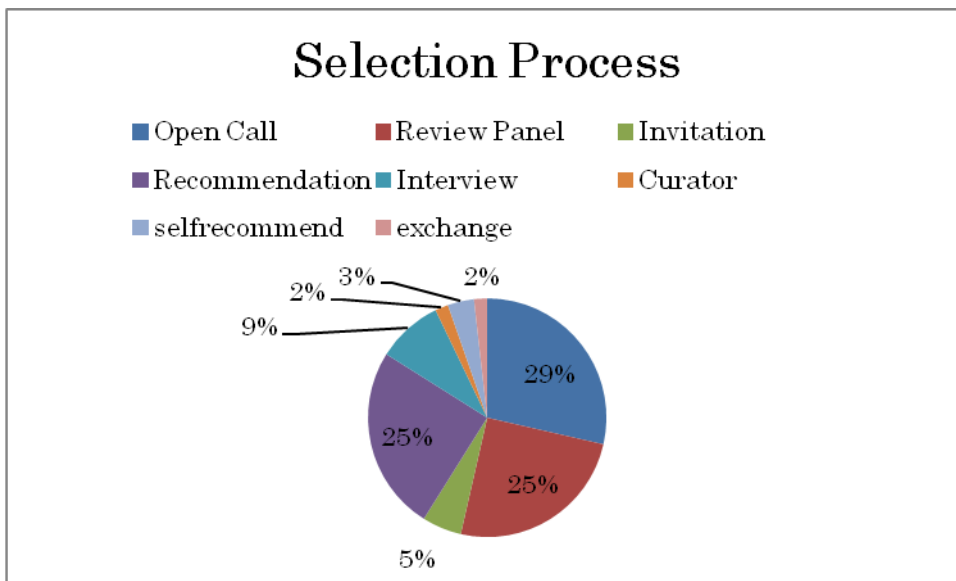
資金の4割以上が自らの収入が占めることから、多くのマイクロレジデンスは独自の資金源に頼って運営を維持していることがわかる。個人の出資が約2割であることから、小規模プログラムの運営が個人の献身的な貢献によることが読み取れる。しかしながら、全体の4分の1以上を政府の助成が占めていることも事実。

・運営予算規模



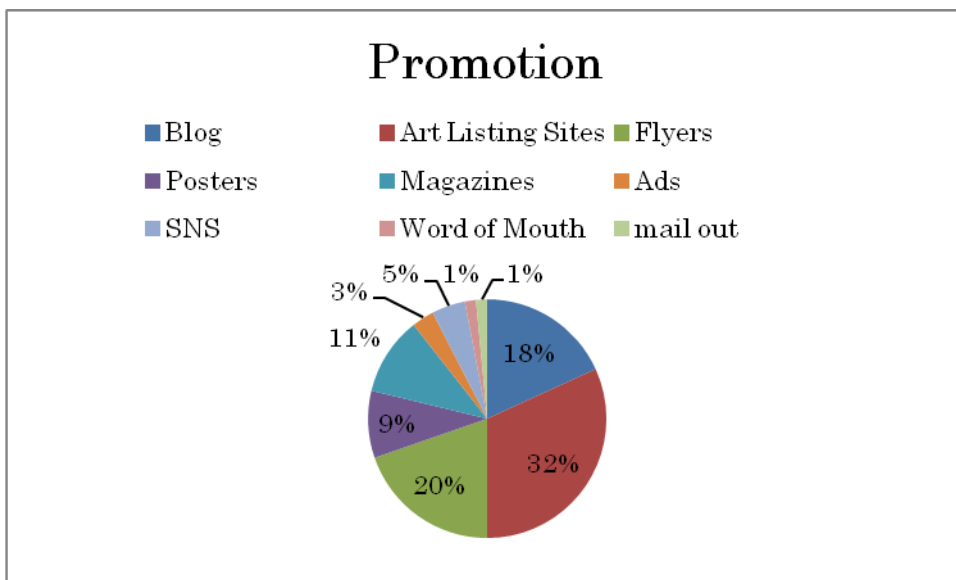
大多数のマイクロレジデンスは、5万 US ドル以下の小規模の予算で活動している。

・作家選考方法



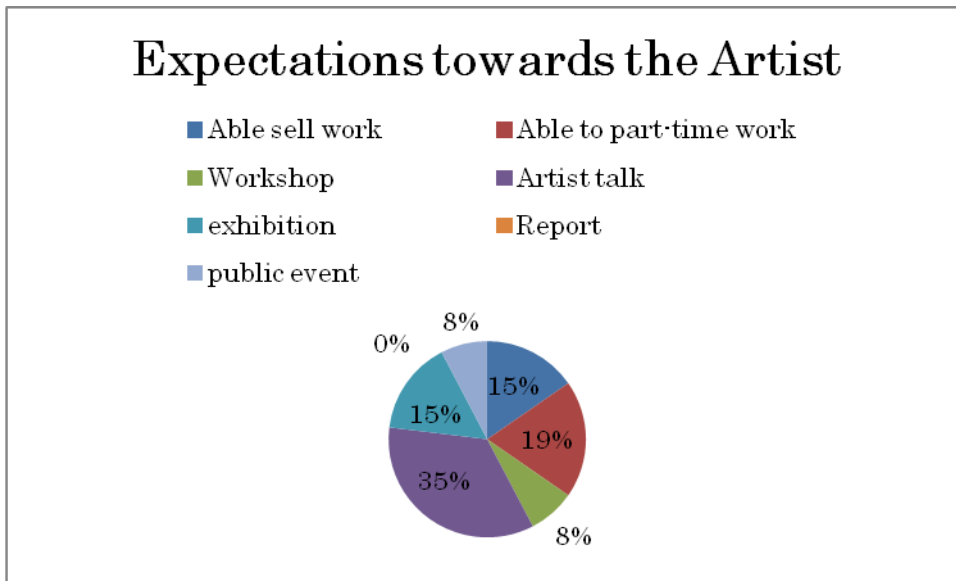
公募、推薦、によるプログラムに参加する作家の選出が主流。

・広報の実態



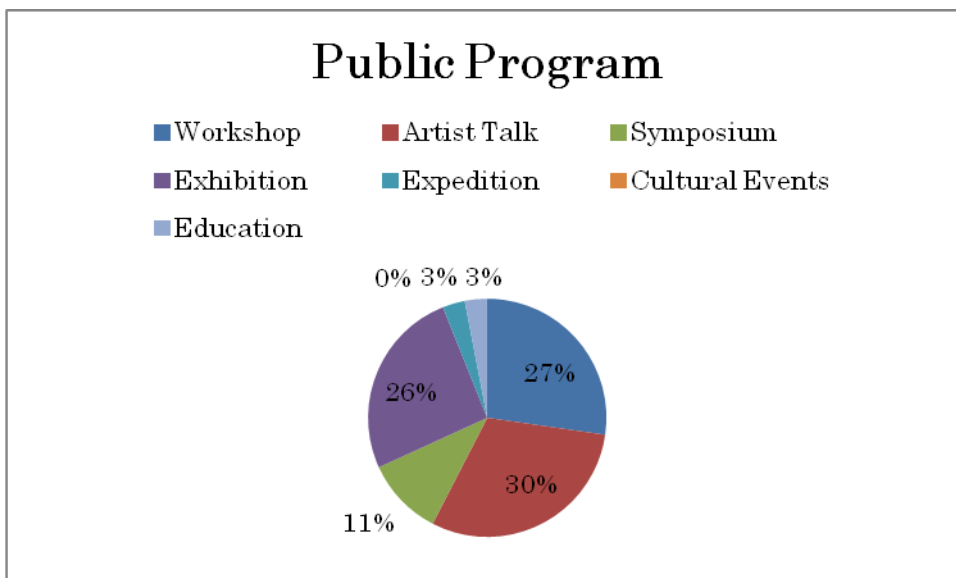
告知は、アート専門の情報提供サイトを介してが主流で、以下、ブログ、ウェブサイト、チラシ媒体と続く。

・作家の活動期待項目



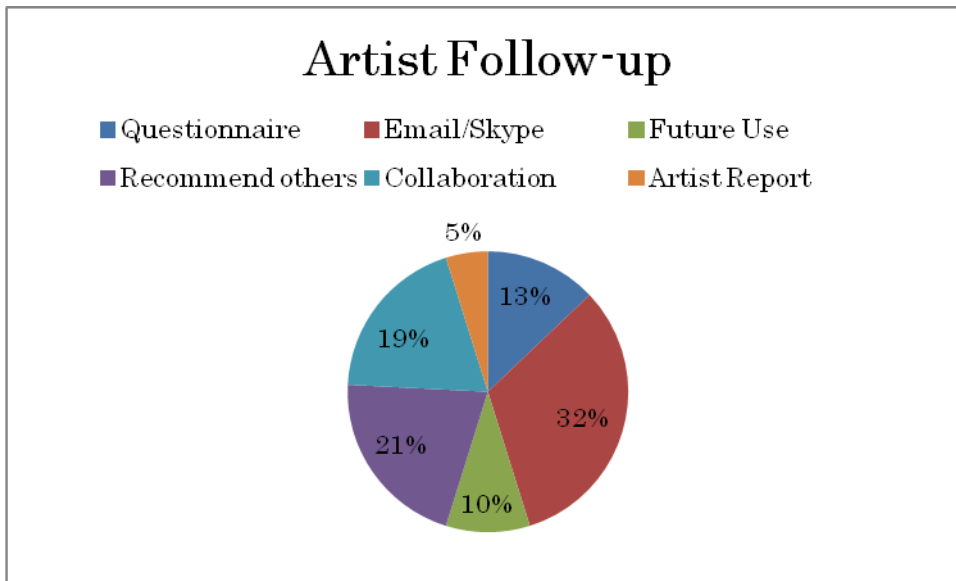
滞在作家に求められる活動として、アーティスト・トークや展示があげられる。パートタイムで働いたり作品を売ることとするレジデンスも少数ある。

・滞在制作以外の活動項目



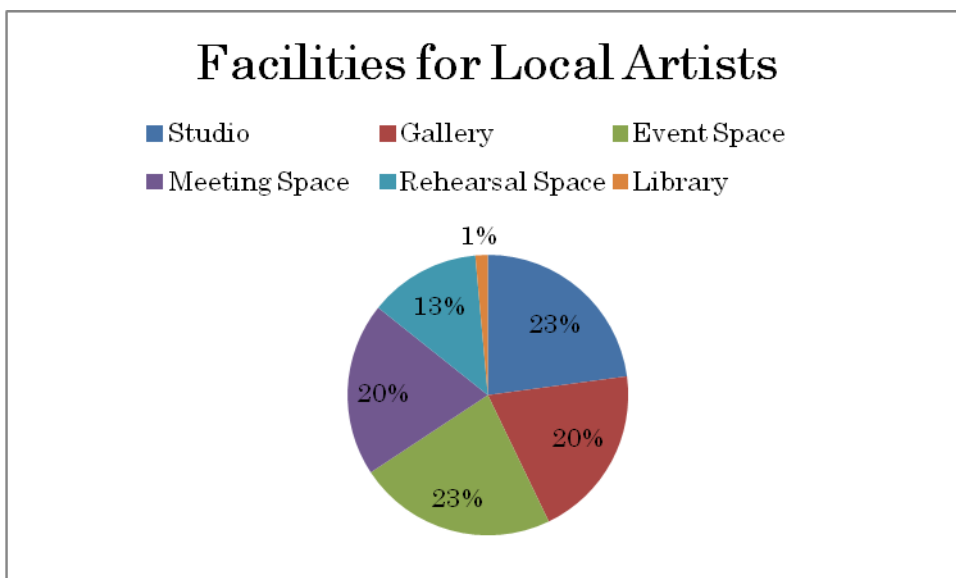
展示やワークショップ、トークを通じて多くのプログラムが公共的な地域活動を行っている。

・滞在制作以降の作家へのフォローアップ手段



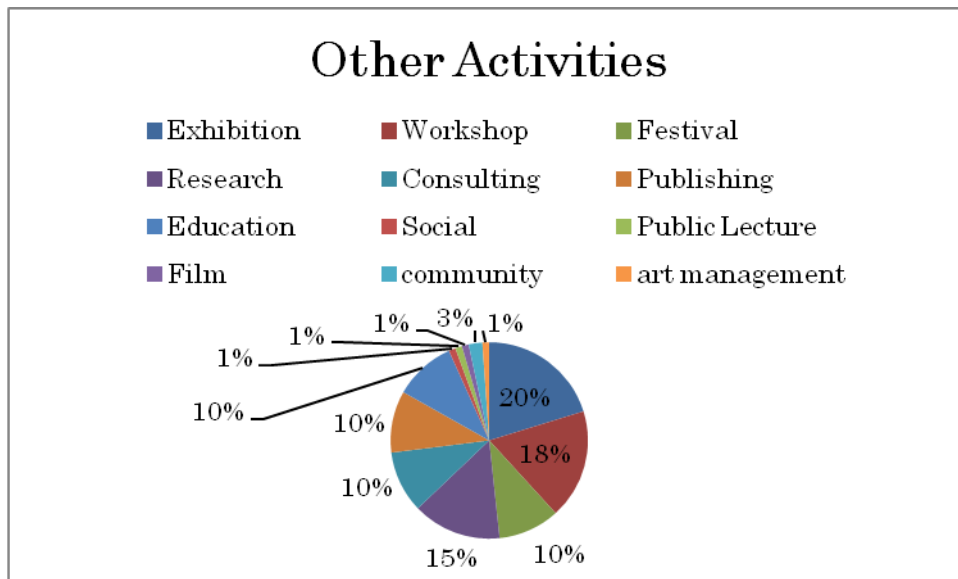
滞在後のアーティストと運営側の対話は、主にEメールやスカイ等のインターネットを介して継続されてる。更に、将来的にコラボレーションプロジェクトを立ち上げたり、作家を推薦したりといった形に発展する場合が多く在る。

・地元作家への施設提供



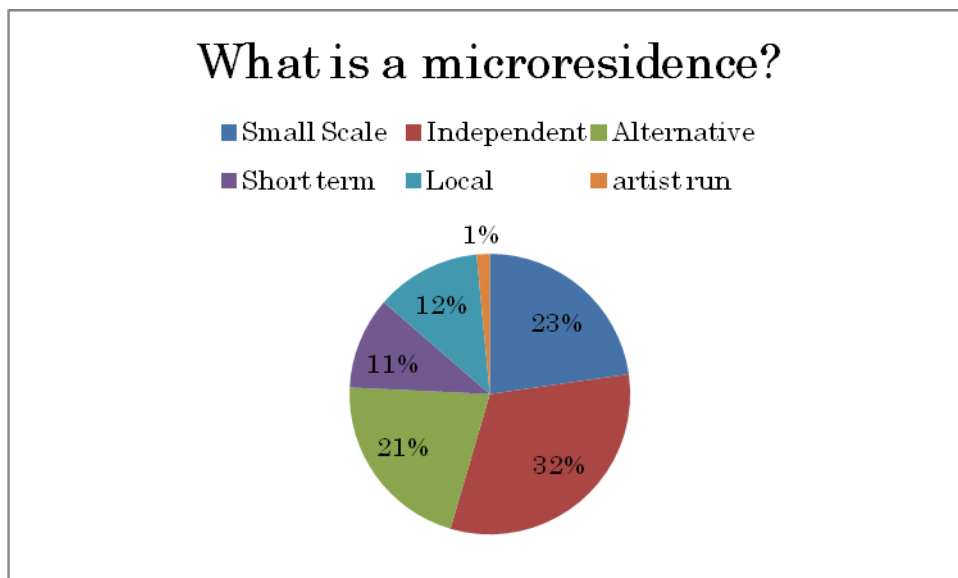
地元のアーティストと滞在アーティストの両方に施設提供をしているケースが多く、スタジオ、ミーティング、イベント、展示の用途に使われている。

・ 関連する活動項目



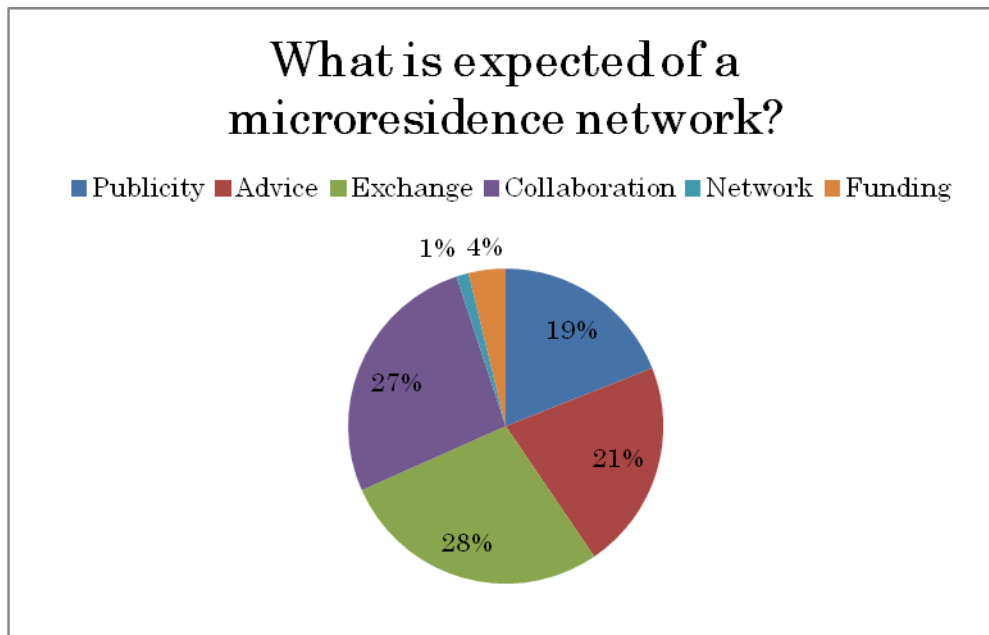
グラフが表す様に、団体の殆どがレジデンス以外の様々な活動を併せて行っている。特にワークショップ、展示、レサーチ等があげられる。

・ マイクロレジデンスをどのように考えますか？



マイクロレジデンスの定義の答えは一つに限らないが、小規模、オルタナティブ、という声もある中で、「独立している」ことが特に大切な特徴であると言える。

・ マイクロレジデンスのネットワークに期待することは？



今後も、ネットワーク構想に参加することで得られる利益は何かを、より深く理解したいと考えている。交換、コラボレーションやサービスの共有を求める声が高く、続いてレジデンス機関の広報効果が期待されているのが分かる。

・ その他の質問事項

調査では、グラフにまとめることが難しい、質に関わる様々な質問も投げかけ、回答を以下の通りに整理した。

レジデンスを始めた理由とは

- クリエーターたちが集まる場所を提供するため
- 国際的な文化交流を促進するため
- 実験に必要な「時間」と「場所」を設けるため
- 若いアーティストを支援するため
- 地域におけるアートと文化への理解を高めるため
- アーティストの活動を通して世界中の情報を発信するため
- 多文化、クロスメディアの交流
- アーティストの育成
- 創造的なコミュニティを育むため
- 新しい環境によって新しいアクションを起こす刺激を与えるため

- コラボレーションのため
- 活動に新たな文脈を与えるため
- 批評的なディスカッションのため
- 地域教育

マイクロレジデンスの役割とは

- マイクロの定義が分からない
- 大規模な機関に対するオルタナティブ
- 代替経済
- 個人主導、但し長所と短所がある
- 個性的で自由度がより高い
- 若いアーティストへの支援
- 地域との関係づくり
- アーティストが即効的に方向転換するチャンス

どのような問題が取り組んでいきたいか

- オルタナティブスペースの必要性
- 経験とオーディエンスを共有する必要性
- 経済的な問題
- 草の根活動の強化
- 代替経済
- 企画の改善
- キュレーターやライターとの接点を作る
- 地域づくり

メンバーはどのようにネットワークに協力するべきと考えるか

- 交換レジデンスプログラム
- ディレクター、スタッフ、リサーチャーの交換プログラム
- 特定の主題に基づくアーティスト同士のコラボレーションプロジェクト
- 経験とアイデアを共有する
- 共同ワークショップ
- リサーチコラボレーション

3. 要約

このアンケートで収集されたデータはマイクロレジデンスの多様性を示しているが、「マイクロレジデンス」というカテゴリー自体もアーティスト・イン・レジデンスの捉え方を広げている。

アンケートに協力して頂いた団体は、主にヨーロッパ、アジア、オセアニアを拠点としているが、遊工房がこれらの地域と繋がりが強いいため、回答結果にその影響が出たとも考えられる。レジデンスの大部分は Res Artis のメンバーではないため、レジデンスプログラムについての包括的なデータベースは未だ存在しないと言える。多くのマイクロレジデンスはアーティスト・ランかインディペンデントな組織であり、運営の自立性とアーティストの役割はマイクロレジデンスの中核を成すことが分かる。レジデンスの大部分は通年アーティスト一人あたり3ヶ月までの滞在期間を設け、ビジュアルアートをはじめ、多様なジャンルを通じて、様々な背景を持ったアーティストとコミュニティの活動を支援している。一方、レジデンスを設立する動機は組織によって様々で、アーティストの育成支援を強調する団体もあれば、芸術交流が文化や社会にあたえる影響に意識的な団体もあり、それはそれぞれのレジデンスの多様なアプローチを反映していると言える。

ほとんどのレジデンスが 50,000 米ドル以下の予算で活動しているという状況からも、マイクロレジデンスの「マイクロ」が予算の規模にも反映されていることが分かる。またその予算は多くが勤労所得であるということは、マイクロレジデンスが自立した運営システムと代替経済を目指し、助成金へ過度に依存しないように努力していると考えられる。とは言え、かなりの割合のレジデンスが実際には公的な助成金の支給を受けているのは、小規模のレジデンスが既にある程度認知されているということを示している。

それぞれのレジデンスは、積極的にパブリックプログラムを提供しており、アーティストも地域社会との交流する機会を得られ、コミュニティにも様々な設備を提供していることが多く見られる。アーティストとマイクロレジデンスとの強いつながりは、滞在期間後のインターネットを介したコミュニケーションに加え、コラボレーションをしたり、他のアーティストを推薦したりという関係に発展することがよくあるということにも見て取れるだろう。

アンケートに回答した団体が持つ「マイクロレジデンス」としてのビジョンと、ネットワークの可能性に関しては、マイクロレジデンスは小規模であるということだけではなく、独立的な立場を持ち、大規模で長く続いている事業のオルタナティブとして機能しているという意識が高い。マイクロレジデンスの役割を改めて議論すると、アーティスト、ホストレジデンス、そして地域コミュニティとの個人的なつながりに重点が置かれ、更にアーティストが自身のアイディアを追求するうえでの自由性も重視される。ネットワークに参加するにあたり、特にコラボレーションを期待するレジデンスが多く、交流や情報共有を中心に互いに連携し、協働したいという意志が強いこと、また、自らの活動について広く PR したいという期待もあることが分かる。予算の問題に取り組みたいというレジデンスがやはり多いが、マイクロレジデンスネットワークを通じて、アーティストやスタッフの交換プログラムや共同リサーチ、ワークショップ、展覧会、情報交換などを行い、プログラムや地域とのつながり、アート関係者とのネットワークの改善、向上を目指す、より広い視野を持ったレジデンスも多いようだ。

第3章 マイクロレジデンス、そのネットワークの可能性

ネットワークの可能性を探るにあたり、世界中のマイクロレジデンスの中から160件にアンケートの回答を依頼し30件余りから積極的な回答を得た。これらのアンケートの回答を元に分析した結果から、次のことが見えてきた。

マイクロレジデンスは、アーティストのスタジオシェアから始まったもの、空きスペースを活用することから始まったもの、アート活動を通じた地域活動の拠点など、いろいろな要因から始まっており、今後も、様々な理由により生まれ、増えていくと考えられる。

この様に個々が独自の活動体であり、多様な形態と目的を持つマイクロレジデンスにとって、ネットワークは必要なのか？であれば、どのような形がふさわしいのだろうか？

長期的な視野で、継続性のあるプラットフォームをイメージするのであれば、それぞれのレジデンスが自由に積極的に参加できるような分散型ネットワークの活動が適切なのだろうか？

アートの世界でも社会の中でも、マイクロレジデンスの役割を積極的に問いかけ、その存在をより視覚化する為に、以下の項目について追求していきたい。

1. AIRの役割について、マイクロレジデンスの位置づけを明らかにすること。
2. マイクロレジデンスが直面する問題に取り組むべく、経験・アドバイスを共有すること。
3. マイクロレジデンスが可能な、新たな協力・コラボレーションを見つけ出し、実行すること。

遊工房アーツスペースでは、2011年12月に「マイクロレジデンスのほんとうのはなし」として、シンガポール、ベトナム、福岡県糸島市のアーティスト・ラン AIR プログラムのディレクターが参集し、ネットワークの可能性について議論を始めた。続く2012年には、個々のAIR プログラム同志のアーティスト交換プログラムを具体的にスタートさせた。又、滞在制作経験アーティストを交えて行う、プログラムの実情や改善に関する直接対話形式の公開トーク「AIRsーアーティスト・イン・レジデンスのほんとうのはなし」シリーズも継続している。2012年10月、11月には、広く国内外のマイクロレジデンス関係者が東京に集い、レジデンス、シンポジウム等を通して、今後の活動の方向性を議論したいと考えている。

加えて、マイクロレジデンスの存在をより可視化し、存在を広く周知するために、今年末を目途にマイクロレジデンスのダイレクトリーとしてまとめる予定である。

ここに表したマイクロレジデンス調査の中間報告から、様々な議論や活動が発展することを期待したい。それぞれの事業の一層の充実につながる「何か」を求め始まったマイクロレジデンスのネットワーク。その可能性は、まさにこれから始まる。

付録

Youkobo Art Space: A Micro-Flexible Arts Community In Tokyo

A Brief Essay of Appreciation by Luis Recoder and Sandra Gibson

アーティストレジデンスとしての遊工房をユニークにしている要素はその親近感わくこぢんまりとした大きさにある。もう少し具体的に言うと、「遊工房アートスペース＝マイクロレジデンス」ということである。

私たちはよく遊工房でのやり取りの中で、この遊工房というレジデンスが他に類を見ないものであることについて語り、そして、それは広い柔軟性を兼ね備えた、規模のコンパクトさを持ち合わせていることに起因するという結論に達した。

つまり、柔軟性における「マクロ（極大）」を持ち合わせた、規模における「マイクロ（微小）」なのである。つまり、遊工房においては、ほとんどすべてのことが可能であると言えるのだ。アーティストは、遊工房を「アートスペース」として実験的な独自の方法による各々の空間に変貌させることができる。

それでは、遊工房アートスペースにおける「アートスペース」とは一体何だろうか？

それは、絶え間なく変化する、スタジオ、ギャラリー、そしてレジデンスといったスペース全体の趣き（アンサンブル）、もしくは、連絡網（ネットワーク）である。

例えば、スタジオは時にギャラリーの別館としても使われる。また、あるいは、もしくは、レジデンスは簡単にスタジオスペースとして早替わりすることも可能である。

一つのスペースはまた別のスペースへと変化する、そしてまた別のスペースによって取って代わられる。

質問：何が遊工房の特筆すべき気質として考えられるだろうか？回答：共同経営者である村田夫妻の先例のない協業チャレンジ精神。村田夫妻は遊工房に訪れるすべてのアーティストのニーズや要望を理解しているだけでなく、常日頃、遊工房がいかにしてより良いアーティスト・イン・レジデンスになり得るかということも自問している。

遊工房は、ある部分においては、アーティスト達の日常的な要望によっても、また進化を遂げている。そして、そういったことはアーティストたちに理想的なアートセンターの創造に積極的に参画するものとしての意識を芽生えさせている。

舵を取るたった二人の指揮者による小さな運営管理としての「マイクロ」。

簡素でありながらも、心に触れる、社会における大きさとしての「マイクロ」。

それが遊工房アートスペースだ。

[付録 II-1] 調査対象期間リスト (* 国名でアルファベット順に記載)

RES ARTIS Members			
no.	Country	Residence	URL
1	Argentina	<u>Centro Rural de Arte</u>	http://www.centroruraldearte.org.ar
2	Argentina	<u>Zona Imaginaria</u>	http://www.zonaimaginaria.com.ar
3	Armenia	<u>ACOSS</u>	http://www.acoss.org
4	Australia	<u>Art in Motion</u>	http://www.artinmotion.com.au
5	Australia	<u>BiqCi</u>	www.biqci.org
6	Australia	<u>Imaging the Land International Research Initiative (ILIRI)</u>	http://www.cofa.unsw.edu.au/research/research-units/iliri
7	Austria	<u>Künstlerhaus Büchsenhausen</u>	http://buechsenhausen.at
8	Canada	<u>Regroupement des centres d'artistes autogérés du Québec (RCAAQ)</u>	http://www.rcaaq.org
9	Canada	<u>Action Art Actuel</u>	http://www.action-art-actuel.org
10	Canada	<u>Ateliers Topaz</u>	http://www.atelierstopaz.ca
11	Canada	<u>Rue Studio</u>	www.ruestudio.ca
12	Canada	<u>The New Gallery</u>	www.thenewgallery.org
13	Canada	<u>The Tree Museum Collective</u>	http://www.thetreemuseum.ca
14	Canada	<u>White Water Gallery</u>	http://www.whitewatergallery.com
15	Canada	<u>Wild Rose Farm Artist's Retreat</u>	http://www.wildrosefarm.ca/
16	Czech Republic	<u>Milkwood Artist Residence</u>	http://www.milkwoodinternational.org
17	Egypt	<u>Fayoum Art Center</u>	http://www.fayoumartcenter.com
18	Finland	<u>Saksala ArtRadius</u>	http://www.saksala.org
19	Finland	<u>Arte ry</u>	http://www.arte.fi
20	Finland	<u>Fiskars Village Artist in Residence</u>	http://www.fiskarsair.fi
21	Finland	<u>KulttuuriKauppila Art Centre</u>	http://www.kulttuurikauppila.fi
22	Finland	<u>Mustarinda</u>	http://mustarinda.fi/en/society/residency
23	France	<u>La Muse Writers' & Artists' Retreat</u>	http://www.lamuseinn.com
24	France	<u>artistay</u>	http://artistay.com/home.html
25	France	<u>Bordeneuve</u>	www.bordeneuveretreat.com
26	France	<u>DRAWinternational</u>	http://www.drawinternational.com
27	France	<u>PAF</u>	http://www.pa-f.net
28	Georgia	<u>GeoAIR</u>	http://geoairresidency.blogspot.com/
29	Germany	<u>GlogauAIR</u>	http://www.glogauair.net
30	Germany	<u>Künstlerhaus Dortmund</u>	http://www.kh-do.de
31	Greece	<u>Medea Electronique / Koumaria</u>	http://www.medeaelectronique.com/
32	Hungary	<u>Hungarian Multicultural Center, Inc.</u>	http://www.hungarian-multicultural-center.com
33	Iceland	<u>Hrisey - Old School</u>	http://www.nordanbal.is/hrisey
34	India	<u>Chhaap Foundation for Printmaking</u>	http://chhaapbaroda.wordpress.com
35	Ireland	<u>Cow House Studios</u>	www.cowhousestudios.com
36	Italy	<u>accademia d'arte</u>	http://www.nicoledurand.net
37	Italy	<u>art farm gaias</u>	www.artfarmgaia.it
38	Italy	<u>Artea ArtCo</u>	http://www.artcohousing.com
39	Italy	<u>International School of Painting, Drawing and Sculpture</u>	http://www.giotto.us
40	Italy	<u>MIRA Martignano International Residency for Artists</u>	http://www.miraresidency.com
41	Italy	<u>Ozu</u>	http://www.ozu.it
42	Japan	<u>3331Arts Chiyoda</u>	http://www.3331.jp/
43	Japan	<u>AIRY</u>	http://air-y.net/
44	Japan	<u>Youkobo Art Space</u>	http://youkobo.co.jp/

45	Mexico	Arequetopia	http://www.arquetopia.org/
46	Mexico	La Ceiba Gráfica	mira@miraresidency.com
47	Netherlands	Hotel Mariakapel	http://www.hotelmariakapel.nl
48	New Zealand	New Pacific Studio Incorporated	http://www.newpacificstudio.org
49	Singapore	Instinc Air	http://www.instinc.com/
50	Spain	Perla 337	http://www.perla337.com
51	Sweden	Konstepidemin/Epidemic of Art	http://www.konstepidemin.se
52	Turkey	Caravansarai	www.caravansarai.info
53	Turkey	Culture House Babayan	http://www.babayanculturehouse.org
54	Turkey	halka art project@	http://halkaartproject.blogspot.com
55	UK	Art Funkl	http://www.artfunkl.com
56	USA	18th Street Arts Center	http://www.18thstreet.org
57	USA	Elsewhere Studios	www.elsewherestudios.org
58	USA	RAID Projects	www.raidprojects.com
59	USA	Sol Print Studios	http://solprintstudios.blogspot.com/
Other			
no.	Country	Residence	URL
60	Argentina	'ACE	http://www.proyectoace.org/fag
61	Australia	Barracks Artists Studios	http://www.thirroul.net.au/barracksstudio
62	Australia	LEVEL artist run initiative	http://levelari.org/about/
63	Australia	Raw Space	http://www.rawspace.org/latest_news.php
64	Australia	Serial Space	http://serialspace.org
65	Australia	Imagine Residency	http://www.artinmotion.com.au/residency.html
66	Cambodia	Sa Sa Art Gallery	http://www.sasabassac.com/
67	Cameroon	Doual'Art	http://www.doualart.org
68	Canada	Gushul Residency	http://www.uleth.ca/finearts/departments/art/gushul-studio-residency-application-guidelines
69	Canada	La Chambre Blanc	http://www.chambreblanche.qc.ca/en/
70	Canada	LIFT	http://lift.ca/
71	Canada	Oxygen	http://www.oxygenartcentre.org/
72	Canada	Perte de Signal	http://www.perte-de-signal.org/
73	Canada	The Bruno Arts Bank	http://sites.google.com/site/thebrunoartsbank/
74	China	943 Studio	http://www.943studio.cn/
75	China	Beijing Studio Centre	http://www.beijingstudiocenter.org/
76	China	island6 Arts Center	http://island6.org/
77	China	Vitamin Creative Space	
78	Colombia	La Residencia en la Tierra	http://www.residenciaenlatierra.org/
79	Colombia	Taller7	
80	Estonia	MoKS, Center for Art and Social	http://www.moks.ee
81	Finland	Art Break	www.taidepaussi.fi/in-english/
82	Germany	____-microresearch Berlin	http://1010.co.uk/org/
83	Germany	Frise	www.frise.de
84	Germany	HomeBase	http://www.homebaseberlin.com/
85	Germany	Takt Kunstprojektraum	http://www.taktberlin.org/residency/index.htm
86	Guadeloupe	L'Artocarpe	http://www.artocarpe.net
87	Hong Kong	Para/site	http://www.para-site.org.hk/
88	Hong Kong	Wooferten	http://www.woofer10.blogspot.com/
89	Hungary	Hock Joint	http://www.hockjoint.com/
90	Hungary	Kitchen Budapest	http://www.kitchenbudapest.hu/
91	Iceland	DÍONYÍSIA	http://www.dionysia.is

92	India	Periferry	http://www.periferry.in/
93	India	1 Shanti Road	http://www.1shanthiroad.com/
94	India	Sandarbh Project	http://sandarbhart.com/
95	Indonesia	HONF	http://www.natural-fiber.com/
96	Indonesia	Common Room	http://commonroom.info/
97	Indonesia	Selasar Sunaryo	http://www.selasarsunaryo.com/
98	Indonesia	Ruangrupa	http://ruangrupa.org/
99	Iran	Paradise	http://www.riverart.net/paradise/
100	Ireland	The Guest House	http://www.thequesthouse.ie
101	Israel	The Mamuta Project	http://mamuta.org/
102	Israel	The Glasshouse	http://dotan-perry.com
103	Japan	AIR Onomichi	http://aironomichi.blogspot.com/
104	Japan	Art Space Chiyofuku	http://chiyofuku.jp.org/
105	Japan	ART11	http://www.artno11.net
106	Japan	Artist in Residence Yamanashi AIRY	http://air-y.net/
107	Japan	Artist-in-Residence Sakuragawa	http://www.asahi-net.or.jp/~tq3m-asg/
108	Japan	Birdo Flugas	http://www.birdoflugas.com/
109	Japan	Domestic Art Project, Yomoyama-so	http://www.yomoyama.org/
110	Japan	International Workshop of Ceramic Art in Tokoname	http://www.japan-net.ne.jp/~iwcat/
111	Japan	Kapo	http://www.kapolog.com/html/about.html
112	Japan	Mino Paper Art Village	http://www9.ocn.ne.jp/~mino-bnk/
113	Japan	Project room ift	http://iftift.exblog.jp/
114	Japan	remo - media artist in residence	http://www.remo.or.jp/ia/
115	Japan	Studio Kura	http://www.studiokura.info/
116	Japan	Yugaku Residence - A piece of	http://apoc-mie.org/yugakutei/air.html
117	Japan	ZERODATE	http://www.zero-date.org/
118	Japan/Kenya	Nairobi Art Project	http://www.nairobi-artproject.jp/
119	Korea	Space Bandee	http://www.spacebandee.com/
120	Korea	Space Beam	http://www.spacebeam.net/
121	Korea	Litmus Community Space	http://litmus.cc/
122	Korea	Supplement Space STONE&WATER	http://www.stonenwater.org/
123	Laos	5 Arts Gallery	
124	Laos	Ban Anou Campus Gallery	
125	Macedonia	Public Room	http://www.publicroom.org
126	Malaysia	LostGeneration	http://lostgenerationspace.blogspot.com
127	Malaysia	Parking project	
128	Malaysia	Rumah Air Panas	http://rumahairpanas.wordpress.com/
129	Malaysia	Rumah YKP	
130	Myanmar	New Zero Art Space	http://www.newzeroartspace.com/
131	Myanmar	NICA	http://artstreammyanmar.net/cultural/nica/nica
132	Netherlands	HMK {Hotel Mariakapel}	http://www.hotelmariakapel.nl
133	Norway	Hordaland Art Centre	http://www.kunstsender.no/utstillingsplass_04
134	portugal	Nodar Artist Residency Center	http://www.binauralmedia.org/news/en/artist-residency/the-residency
135	Romania	Bucharest Air	http://www.bucharestair.com/
136	Senegal	Kër Thioassane	http://www.ker-thioassane.org/
137	Serbia	balkankult	http://www.balkankult.org/bk/
138	Serbia and	kuda.org	http://kuda.org
139	Singapore	Post-Museum	http://www.post-museum.org/

140	Singapore	Your Mother Gallery	
141	Slovakia	SPACE Residency lab	http://www.priestor.org
142	Slovenia	Celeia Celje	http://www.celeia.info/center_sodobnih_umet
143	Slovenia	Museum of Transitory Art	http://www.motamuseum.com/About/museum-transitory-art
144	Spain	Komando Kultura Kontemporanea	www.kkkb.es
145	Sweden	Royal Kitchen Residency Project	www.daonk.org
146	Taiwan	Bamboo Curtain	http://bambooculture.com/
147	Taiwan	Taipei Contemporary Art Centre	http://www.tcac.tw/
148	Thailand	Compeung	http://www.compeung.org/
149	Thailand	Ne'na Contemporary Artspace	http://www.nena-artspace.org/
150	Turkey	Apartment Project	http://www.apartmentproject.com/projects.asp?PROJE_ID=75
151	UK	LOW&HIGH	http://lowandhighplatform.wordpress.com/micro-residencies/
152	UK	Edinburgh Sculpture Workshop	http://www.edinburghsculpture.org/
153	UK	<u>Stand + Stare Collective</u>	http://www.pmstudio.co.uk/news/2011/05/30/stand-stare-micro-residency
154	USA	Rural Projects	www.ruralprojects.org
155	USA	Broken City Lab	http://www.brokencitylab.org/blog/broken-city-lab-micro-residencies/
156	USA	Light Work	http://www.lightwork.org/
157	USA	PointB	http://pointb.org/
158	USA	SOHO20 Gallery Chelsea	http://www.soho20gallery.com/New/residency
159	USA	SPACES	http://www.spacesgallery.org/
160	USA	The Montana Artists Refuge	http://www.montanaartistsrefuge.org/
161	USA	The Wassaic Project	http://www.wassaicproject.org/
162	Vietnam	Nha San	http://www.nhasanstudio.org/web/index.php
163	Vietnam	Zero Station	http://www.zerostation.vn/home.php?id=31
164	Vietnam	a little blah blah	http://albbsaigon.blogspot.com/

マイクロレジデンスリサーチ	
基本情報	
団体名	
レジデンス事業名	
住所	
都市・県	
電話番号	
メールアドレス	
活動概念	
事業開始年	
組織	アーティスト主導 ☐ ／公共機関 ☐ ／独立法人 ☐ ／私人 ☐ ／共同体 ☐
施設	
宿泊	部屋 m ²
スタジオ	部屋 m ²
制作設備	金属 ☐ 木工 ☐ 陶芸 ☐ グラス ☐ 版画 ☐ 音楽 ☐ 演劇・ダンス ☐
ギャラリー	m ²
その他	
スタッフ	フルタイム 人 パートタイム 人
人の出入り	1 週間 人
レジデンスプログラム	
レジデンス期間	1 ヶ月 ☐ ／2 ヶ月 ☐ ／3 ヶ月 ☐ ／4 ヶ月 ☐ ／5 ヶ月 ☐ ／6 ヶ月 ☐ ／7 ヶ月 ☐ ／8 ヶ月 ☐ ／1 年間 ☐ ／1 年間以上
活動時期	何時でも ☐ ／期間限定 ☐ _____
ジャンル	ビジュアルアート ☐ ／デザイン ☐ ／音楽 ☐ ／パフォーマンス ☐ ／クラフト ☐
マイクロレジデンスのかたち	アーティストスタジオ型 ☐ ／地域のアートセンター型 ☐ ／そのあいだの比重 ☐ ／
レジデンス定員	____ 名
ロケーション	首都 ☐ ／大都市 ☐ ／町 ☐ ／村 ☐ 工業地帯 ☐ ／商業地帯 ☐ ／住宅地 ☐ 観光地 ☐ ／行楽地 ☐ ／自然公園 ☐ ／リゾート地 ☐ 難民キャンプ ☐ 過疎化した所 ☐ 山の中 ☐ ／海岸 ☐ 漁港 ☐ ／農業 ☐ 研究開発センター ☐ 博物館 ☐ ／美術館 ☐ ／科学館 ☐ その他_____
財政	

活動資金（支援元、資金源、・・・）	事業収入 %／助成金 %／補助金 %／寄付金 %／私費 %
予算	10,000 USD 以下 ☐ 10,000-50,000USD ☐ 50,000-150,000USD ☐ 150,000-300,000USD ☐ 300,000USD 以上 ☐
アーティストへの支援	渡航費 ☐ ／スタジオ使用料 ☐ ／宿泊費 ☐ ／材料費 ☐ ／生活費 ☐ ／謝金・報償 ☐
活動について	
このレジデンスをスタートした理由は何でしょうか。レジデンス事業の目的は何でしょうか。	
レジデンスはどのような役割をもっていますか。	
☐ アーティストの創造活動(支援) ☐ アーティスト育成 ☐ 地域活性 ☐ その他_____	
どのようにレジデンス事業を宣伝しますか。	
HP ☐ ブログ ☐ アート情報サイト ☐ チラシ ☐ ポスター ☐ 新聞・雑誌 ☐ 広告 ☐ SNS ☐ その他_____	
どのようなアーティストがレジデンスに参加しますか。	
☐ 若い ☐ 中年 ☐ パートタイムアーティスト ☐ フルタイムアーティスト ☐ 有名なアーティスト ☐ いろいろなレジデンスを回るアーティスト ☐ 制作に集中するアーティスト ☐ コミュニティと協力するアーティスト	
アーティストはどのように選ばれるでしょうか。	
公募 ☐ 審査 ☐ 面接 ☐ 推薦 ☐ その他 ☐ _____	
レジデンス事業では公開のプログラムもありますか。	
ワークショップ ☐ アーティストトーク ☐ シンポジウム ☐ 展覧会 ☐ その他_____	

レジデンスの後どのようにアーティストをフォローしますか。	
アンケート□ 定期的にメール・スカイプ□ 再利用□ アーティスト推薦□ コラボレーション□	
アーティストは地域の人にどのように受けられています。アーティストは地域の中でどのような存在・役割がありますか。	
作品に集中するためにアーティストへ時間・空間を設けることか社会参加・コミュニティとつながることか、どちらを強調していますか。ご説明ください。	
レジデンスは周りのアートシーン・地域にどのような影響を与えていますか。どのように貢献していますか。	
アーティストの活動対して特別な条件がありますか。	
滞在中副業可□ 作品販売可□ ワークショップ必要□ トーク必要□ 展覧会必要□	
ローカルなアーティストのためにどんな設備を提供しますか。	
スタジオ□ ギャラリー□ イベントスペース□ ミーティングスペース□ リハーサルスペース□	
レジデンス以外どのような活動しますか。	
展覧会□ ワークショップ□ フェスティバル□ 研究□ コンサルティング□ 出版□ 教育□ その他 _____	
他のレジデンス・団体とコラボレーションしていますか。詳細をお説明ください。	
レジデンスとしてどのような問題を直線しますか。	
マイクロレジデンスについて	

マイクロレジデンスとは何ですか。
小規模□ インディペンデント□ オールタナティブ□ 短期間□ ローカル性がある□
マイクロレジデンスの役割は何だと思いますか。
マイクロレジデンスネットワークに入ろうとしたら何を得たらいいと思いますか。
宣伝□ 相談□ 国際交流□ コラボレーション□ その他_____
どの問題点についてディスカッションしたら良いでしょうか。
ネットワークの他のメンバーとどのような協力・コラボレーションができればいいでしょうか。

このリサーチ資料の回答を集めて、アーティスト・アート団体・一般の方が世界中レジデンスの状況をより知ることができるためにネット上のデータベースとして公開します。団体一つずつに経済的な詳細などを公開しませんが、全体の回答を収集して分析します。一方、このデータベースにおいてそれぞれのレジデンスを紹介したいと思っておりますので名称、活動概要、所在地、施設のイメージ、平面図、ロゴ、連絡先を掲載させていただければ幸いです。このデータベースでレジデンスの詳細を紹介することが可能であれば施設のイメージ、平面図、ロゴを送っていただければ幸いです。

[付録 II-3] 調査回答機関リスト

*Res Artis メンバーには「res artis」と付記されます

International 海外レジデンス

1. Caravansarai – Turkey <http://www.caravansarai.info/> res artis
2. GeoAir – Georgia <http://geoairresidency.blogspot.com/> res artis
3. Ne'-Na Contemporary Artspace– Thailand <http://nena-artspace.org>
4. Acoos – Armenia <http://www.acoos.org/> res artis
5. BigCi – Australia www.bigci.org res artis
6. medea electronique – Greece <http://www.medeaelectronique.com/> res artis
7. Perte de Signal – Canada <http://www.perte-de-signal.org>
8. Frise – Germany <http://www.frise.de/>
9. balkankult – Serbia <http://www.balkankult.org/bk/>
10. INSTINC – Singapore <http://www.instinc.com> res artis
11. Kulttuurikauppila – Finland <http://www.kulttuurikauppila.fi/> res artis
12. Art Break – Finland <http://www.taidepaussi.fi/in-english/>
13. Arquetopia – Mexico <http://www.arquetopia.org/> res artis
14. LEVEL artist run initiative – Australia www.levelari.org
15. Serial Space – Australia <http://serialspace.org/about/>
16. Low&High – UK <http://lowandhighplatform.wordpress.com/>
17. NPS – New Zealand <http://www.newpacificstudio.org/> res artis
18. Kitchen Budapest – Hungary <http://www.kitchenbudapest.hu/en>
19. Nha San Duc Studio – Vietnam <http://www.nhasanstudio.org/>
20. artistay – France <http://artistay.com/home.html> res artis
21. imagine Residency – Australia <http://www.artinmotion.com.au/residency.html>
22. New Zero Art Space – Myanmar <http://www.newzeroartspace.com/>
23. Residencia en la Tierra – Colombia <http://www.residenciaenlatierra.org/>
24. HomeBase – USA/Germany/Israel <http://www.homebaseproject.org/>

Japan 国内レジデンス

25. 石彫千年の交感 Artist-in-Residence Sakuragawa <http://www.asahi-net.or.jp/~tq3m-asg/>
26. スタジオ KURA Studio Kura <http://www.studiokura.info/>
27. Yugakutei Residence http://apoc-mie.org/yugakutei/air_record.html
28. 遊工房アーツスペース Youkobo Art Space <http://youkobo.co.jp/> res artis
29. 3331 Arts Chiyoda <http://www.3331.jp/en/> res artis
30. AIRY 山梨 <http://air-y.net/> res artis

AIRs vol.1 アーティスト・イン・レジデンスのほんとうのはなし

2005.12.3.sat - 12.23. fri
遊工房アールスペース
12:00 - 20:00 Last day - 17:00
Closed on Tuesday



杉並区善福寺3-2-10
tel:03-5930-5009
e-mail:info@youkobo.co.jp
<http://www.youkobo.co.jp>

AIRs vol.1 「アーティスト・イン・レジデンスのほんとうのはなし」

アーティスト・イン・レジデンスでの経験を展示作品でみせるドロップ・イン・ギャラリーとトークやプレゼンなど参加型のラウンジ・カフェを期間限定でオープン。各地のAIRプログラムについて「そこはどんなところ?」「そこで何をしたの?」といった話はアーティスト同士でも以外に話す機会がありません。アーティストおよび運営者のゆるやかな繋がりや情報交換の場となるとともに、経験のない方にも事実以上に美化することなく「ほんとうのこと」を提示したいと思います。

● vol.1 中心企画 / Drop in Gallery / YOUKOB GALLERY ●

「どのように過ごしたの?」「何を発見したの?」「何を抽出したの?」

実際にアーティストたちが国内外のAIRで滞在制作したもの、記録されたもの、イメージやテキストを通してAIRをリアルに浮かびあがらせてみます。稲垣立男、もとみやかをる、遊工房滞在アーティスト 他

● ほんとうのはなしをほんとうにきける / Artist Lounge / YOUKOB STUDIO A,B ●

AIRに滞在したアーティストを招いた活動報告、お話し。

AIRの現場の生な声を聞く良い機会です。STUDIOにてアット・ホームな雰囲気の中気軽にコミュニケーションしながら、有意義な情報交換、AIRを見直す場に。食べ物、ドリンク持込大歓迎! 皆様のお越しをお待ちしております。

12/ 3.sat 15:00 - Lounge part1 / Artist Talk, Opening Party / 稲垣立男、江上弘 他

12/10.sat 15:00 - Lounge part2 / Open Studio, Talk Party / もとみやかをる 他

12/17.sat 15:00 - Lounge part3 / Open Studio, Talk Party / AIR 滞在ゲストアーティスト 他

● AIRs - 滞在制作の可能性 - ●

● AIRs vol.1 企画・制作 AIRs実行委員会/遊工房アトスペース ●

アーティストが一定期間滞在し、創作活動する「アーティスト・イン・レジデンス(以下AIR)」に関して日本でも自治体や民間から新たなプログラムが生まれ、議論が活発に行われるようになってきました。しかし、実際に国内外のAIRで滞在経験したアーティストたちの声を聞く機会はいまだありません。「AIRs-滞在制作の可能性-」はAIRにおいてアーティストが実際に「滞在し」「制作」する部分に焦点をあて、アーティスト、運営組織、地域コミュニティを結ぶAIRをアートの一つの方法論として提示します。アーティストの視点に立脚したAIRの現状や未来の可能性についての対話、AIR本来のオルタナティブな場としての可能性を立体的に捉えなおす試みは、その存在意義と本質を明確にする端緒になりうると考えます。この企画は長期的な試みとして提案され、報告書として出版する予定です。これまでの美術のシステムには収まりきれない活動の形態、社会との関連性、国際間の異文化交流を積極的に模索し研究するための一石を投じます。

■ 稲垣立男

AIR滞在制作

2004 Localism/メキシコシティ、メキシコ
2003 Cultural Heritage and Contemporary Art/アンタルヤ、トルコ
2002 Geizedale Arts/グライズデール、イギリス
国際芸術センター-青森/青森、日本
2001 18th Street Arts Complex/サンタモニカ、アメリカ
2000 ロンドン大学ロイヤルホロウェイ校/ロンドン、イギリス
Nordic Artists' Centre in Dale/ダーレ、ノルウェー
1999 The 8th International Artists Open Air Symposium/ミュンヘン、ドイツ
Le Vent des Forêts/ムーズ、フランス

稲垣立男のプロジェクトは、地域コミュニティとのコラボレーションであり、その地域に特有の形となっている。これまでに日本をはじめ、メキシコ、トルコ、フランス、ドイツ、スウェーデン、ノルウェー、韓国、フィリピン、タイ、オーストラリア各国でプロジェクトを行っている。2003年「一対一のコミュニケーション」アート:稲垣立男の「博物館」プロジェクトにおける事例研究」を学会「Fieldworks:Dialogues between art and anthropology」(チートモダン)にて発表。2001年にはロサンゼルス・インターナショナル・アート・ビエンナーレに参加。2000年にはロンドン大学ロイヤルホロウェイ校ラングラーセンターのバリエーション・アート・プロジェクトのための制作を依頼された。

現在 穂内北星学園大学助教授



■ もとみやかをる

AIR滞在制作

2004 Vienna Artist in Residence/ウィーン、オーストリア
Alliance Francaise/バンコック、タイ
2003 ISCP/ニューヨーク、アメリカ
バンフアートセンター/アルベルタ、カナダ
Accessibility 2003/サウスキャロライナ、アメリカ
2002 ソーラーサーキット/タスマニア、オーストラリア
スナッグハーバーカルチュラルセンター/ニューヨーク、アメリカ
2001 ISCP/ニューヨーク、アメリカ
バンフアートセンター/アルベルタ、カナダ
2000 ヘッドランドアートセンター/カリフォルニア、アメリカ

2001年アーティスト・イン・レジデンスに関するシンポジウム「アーティスト・イン・レジデンスと幸福のマリウス」(カナダ大使館)、「アーティスト・イン・レジデンス・パートナーシップの構築」(国際交流基金)等に参加。その他、美術館等でのグループ展に出品多数。2004年では「Living Together is Easy」水戸芸術館(茨城)ビジュアル国立美術館(メルボルン)「Officina ASIA」ボコニヤ美術館(ボコニヤ、チエセナ、リミニ)「アートがあれば」オペラシティアートギャラリー(東京)、ミヤマアートギャラリー(東京)を中心に展覧多数。



◆◆◆ 遊工房アトスペース ◆◆◆ www.youkobo.co.jp

遊工房アトスペースは1950年代から80年代まで診療所として使われていました。1980年以降美術教室、彫刻アトリエ、アニメーションスタジオなど美術活動の「場」として提供。2001年さらに活動を充実させるため、現代美術の発信を目的とするギャラリー、創作スタジオおよび滞在施設を備えたアートの複合施設として始動しました。国内外のアーティストとの交流、地域に根ざした芸術活動の場となり、アーティスト・イン・レジデンスも本格的に活動。これまでに、15カ国70名以上に海外からのアーティストが滞在。50名を超える国内外の若手アーティストを中心とした展覧会を行っています。(2005年6月現在)

〒167-0041 東京都杉並区善福寺3-2-10

□JR中央線「西荻窪」駅北口バス2番

「上石神井」・「大泉学園」行「善福寺」下車すぐ

□JR中央線・地下鉄丸の内線「荻窪」駅北口0番

「武蔵関駅」・「北裏」行「善福寺」下車徒歩1分

zempukuji, 3-2-10,
suginami-ku, TOKYO,
167-0041 JAPAN
Phone: 03-5930-5009
Fax: 03-3399-7549
E-mail: info@youkobo.co.jp



遊工房アートスペース 5 周年記念

AIRs vol. 1 アーティスト・イン・レジデンスのほんとうのはなし

主催：遊工房アートスペース

日程：

DAY 1：2005 年 12 月 3 日（土） 15:00-18:00

DAY 2：2005 年 12 月 10 日（土） 15:00-18:00

Day 3：2005 年 12 月 17 日（土） 15:00-20:00

関連企画：

2005 年 12 月 3 日（土） - 23 日（金） 12：00-
20：00（火休み、最終日 17：00 まで）

- ・ドロップ イン ギャラリー
- ・各地 AIR の資料閲覧コーナー及び AIR 体験アーティストへのアンケート調査報告



会場：遊工房アートスペース

主旨：

アーティストが一定期間滞在し、創作活動する「アーティスト・イン・レジデンス（以下 A I R）」に関して、日本でも自治体や民間から新たなプログラムが生まれ、議論が活発に行われるようになってきた。しかし、実際に国内外の A I R 滞在を経験したアーティストたちの声を聞く機会はそれほどあまりない。「A I R s—滞在制作の可能性—」は A I R においてアーティストたちが実際に「滞在」し「制作」する部分に焦点をあて、アーティスト、運営組織、地域コミュニティを結ぶ、A I R をアートの一つの方法論として呈示する。アーティストの視点に立脚した A I R の現状や未来の可能性についての対話、A I R 本来のオルタナティブな場としての可能性を立体的に捉えなおす試みは、その存在意義と本質を明確にする端緒になりうると考える。この企画は長期的でゆるやかな試みとして提案され、報告書してゆく予定です。これまでの美術のシステムには収まりきらない活動の形態、社会との関連性、国際間の異文化交流を積極的に模索し研究するための一石を投じる。

開催概要：

「AIRs—滞在制作の可能性—」をテーマに、A I R を経験したアーティストが、スライドや映像、スカイプを使って体験談を披露。気軽な雰囲気、情報交換をしながら A I R のほんとうのところを見直す機会に。各地のアーティスト・イン・レジデンスについて「そこはどんなところ？」「そこで何をしていたの？」といった話はアーティスト同士でも以外に話す機会がない。そこで、アーティストおよび運営者のゆるやかな繋がりや情報交換の場を設けるとともに、経験者、経験者でない方にも事実以上に美化することなく「ほんとうのこと」を提示する場として、3 週間、各週末土曜日、アーティストラウンジを開催。並行してドロップインギャラリーとして、実際にアーティストたちが国内外の A I R で滞在制作したもの、記録したもの、体験談を、作品やパネル、映像展示で紹介した。さらに、各地 AIR の資料閲覧コーナー、AIR 体験アーティストへのアンケート調査報告を実施。

DAY 1 : 2005 年 12 月 3 日 モデリスト : 稲垣立男 もとみやかをる

・稲垣立男 アーティスト

日本をはじめ、メキシコ、トルコ、フランス、ドイツ、スウェーデン、ノルウェー、韓国、フィリピン

タイ、オーストラリア各国に滞在し、地域とのコラボレーションを主としたプロジェクトを行っている。

・江上弘 アーティスト

アーティスト主導の野外展、我孫子野外美術展ディレクター。2005 年より我孫子国際野外美術展として新たな組織を立ち上げ、我孫子の地域と密着した展開をしている。海外より作家を招いての展示のため、アーティスト滞在施設を持つ。

・山口尚之 建築家

富山県八尾の廃校にて、八尾スローアートショーを主催。

建築家として地域と関わりながら、アーティストを招聘したイベントを 2 回開催。

地方の廃校でのイベントのために、アーティストはそこに滞在しながら制作をした。

DAY 2 : 2005 年 12 月 10 日 モデリスト : 稲垣立男 もとみやかをる

・もとみやかをる アーティスト

オーストリア、タイ、アメリカ、カナダ、オーストラリアなど各国の A I R に滞在、制作。

アメリカ、カナダには数箇所滞在中。2001 年アーティスト・イン・レジデンスに関するシンポジウム「アーティスト・イン・レジデンスと幸福のマトリクス」(カナダ大使館)、「アーティストインレジデンスパートナーシップの構築」(国際交流基金)等に参加。

・遠藤研二 アーティスト

コンテンポラリー・アーティスト・イン・レジデンス・プログラム金沢(C. A. R. K) 主催。金沢美術工芸大学+Cork Artists Collective でアイルランドにて滞在制作。アイルランド以外にも国内外作家を招聘、また派遣をしている。

・増山士郎 アーティスト

アイルランド、ドイツ、オーストリア、スペイン、アメリカにて A I R に滞在。現在、ベルリン在住。M I X I 主催。アーティスト・イン・レジデンスの情報を発信するなど、ネットワークの中心になっている。今回は、スカイプにて現地より参加。

・開発好明 アーティスト

ドイツ、カナダ、アメリカなどにて滞在制作。毎年 3 月 9 日をサンキューアートの日とする全世界的イベントを企画。今回は増山士郎氏と一緒にスカイプで参加。ベルリンより現地報告。

・村田真 アートジャーナリスト

国際交流基金の各国 A I R 視察を行う。現在、神奈川県横浜の B A N K A R T 校長。B A N K A R T にはアーティスト・イン・スタジオがある。

DAY 3 : 2005 年 12 月 17 日 モデリスト : 村田達彦

・帆足亜紀 A R C U S ディレクター

茨城県守谷市を拠点とし、現代芸術分野の若手アーティストを招き、滞在期間中の創作活動を支援する A I R プログラムを中心に、身近にアーティストと交流し、新しい芸術を体験する機会を地域の方

にも提供するプログラムを展開。

・チェン・イ=チェ アーティスト

A R C U S に 2005 年招聘アーティストとして滞在制作。台湾の美術大学に在学中。A R C U S では「ご招待」と題した平面作品を発表した。

・高梨裕理 アーティスト

彫刻のシンポジウムに参加、ボリビア、メキシコにて滞在制作。アーティストと地元が中心となった個人のスペースへの滞在制作経験。

・細井篤 アーティスト

マケドニア、イギリス、アメリカにて滞在制作。彫刻家。それぞれの違いによる面白さ、目的などを報告。制作から、レクチャー、展示まで場所によるプログラムの違いを体験。

・スサナ・レベルディット アーティスト

スペイン生まれ、ドイツ在住のアーティスト。遊工房アートスペースに3ヶ月滞在。スタジオで日本の印象を平面に描き、その成果を銀座の画廊、遊工房ギャラリーで展示。

・村田達彦 遊工房アートスペース

1980 年より美術活動の「場」として遊工房アートスペースを始動。2001 年より本格的にアーティスト・イン・レジデンス、ギャラリー、スタジオを、東京の小さな複合施設として活動している。2005 年までに、15 カ国、70 名あまりの海外からのアーティストが滞在。Res Artis にも加盟している。

ドロップインギャラリー参加アーティスト：

稲垣立男 江上弘 エサシトモコ 遠藤研二 岡美里 小宮伸二 増山士郎、もとみやかをる 松本恭吾 山口尚之 C. A. R. K./南なつ

スサナ・レベルディット、チェン・イ=チェ ベッキー・ショウ サム・スミス他、過去遊工房滞在アーティスト

・展示概要：

稲垣立男/これまでのプロジェクトのパネル、My Place (トルコ)、グライスデール博物館 (イギリス)、ダーレ博物館 (ノルウェー) 他

エサシトモコ/スコットランド滞在記

遠藤研二/ “Reproduction” 写真 (アイルランド、CORK)

岡美里/ “Night of Peace / Peace of Night” パネル (アメリカ/バーモント州)

小宮伸二/アメリカ/バーモント州/ミドルベリー大学滞在報告、スロヴァキア/ビリオン/ローゼンベルグミュージアム滞在報告、オーストリア/サンクト・ランブレヒト修道院滞在報告 パネル

松本恭吾/ “散歩プロジェクト FOOTSTEP II” (神奈川県/BankART Studio NYK)

増山士郎 / “7days of a week” DVD (ドイツ/ベルリン)

もとみやかをる/ “water project” (オーストリア/ウィーン) ヘッドランドの隣人たち滞在日常記、C. A. R. K./紹介 DVD アンティ・ヨロネン (フィンランド)、横山飛鳥、高島亮三/トロールの森ユニークな造形達 DVD

サム・スミス / “Tokyo EXERCISE SUITE 2005” 遊工房滞在 (オーストラリア)

サラ・オッペンハイマー/ “Box Manのための試作” 遊工房滞在 (アメリカ)

スサナ・レベルディット / “Rainy day” 遊工房滞在 (スペイン)

デイビッド・ソウテル / 遊工房滞在 (オーストラリア)

フェリト・オズシェン / 遊工房滞在 (トルコ)

マリタ・リウリア / “Sublime” 遊工房滞在 (フィンランド) 他





AIRs vol. 2

アーティスト・イン・レジデンスのほんとうのはなし

遊工房アトスペース 10 周年記念

アーティストが自らのアーティスト・イン・レジデンス (AIR) の滞在経験を、今後 AIR への参加を考えているアーティストと共有するトーク&ディスカッションシリーズの第2弾。

アーティストとしてのキャリアの中に、どのように AIR という機会を位置づけ、活かすか、また実際に参加した成果、今、どのように感じているか、アーティストの制作活動やキャリアと AIR について考えます。AIR に参加するにあたっての準備、タイミング、滞在・制作環境、各地のアートシーンなど、アーティストの目線から AIR にまつわるトータルな実体験を報告します。更に、アーティストの海外 AIR 滞在を支援する助成団体からも情報の提供をいただきます。

また、今回は、国内外で AIR を自ら運営しているアーティストを招き、自身が関わる AIR プログラムについて紹介するとともに、「アーティストが AIR を運営する」という別の角度から、アーティストと AIR の関係性について語り合います。このイベントは今後 AIR への参加を考えているアーティストや美大生、これまで滞在した AIR について情報を分かち合うことに興味があるアーティストの方々を参加対象としています。滞在制作型の展覧会、国際展、プロジェクトに参加されたアーティストからの発言、情報提供も歓迎します。

アーティストの皆さんが AIR について理解を深め、各々のキャリアにとってプラスとなる機会につながることを願っています。

○開催日程：2011 年 12 月 23 日 (金・祝) 13:00 - 18:30 参加費無料

○会場：遊工房アトスペース

〒167-0041 東京都杉並区善福寺 3-2-10

Tel: 03-5930-5009 E-mail: info@youkobo.co.jp

http://www.youkobo.co.jp/

○アクセス：JR 中央線、西荻窪駅北口、2 番バス停より上石神井駅行・他バスにて「善福寺」バス停下車、目の前。また、西荻窪駅より徒歩約 20 分。

東京メトロ丸の内線、JR 荻窪駅北口・0 番バス停より武蔵関駅行・他バスにて「善福寺」バス停下車すぐ。

注：JR 中央線快速は祝日につき、西荻窪駅には停車しません。

○タイムテーブル

13:00 - 15:45

Part 1 「AIR に参加する」

アーティストが実際に滞在した AIR での活動について報告します。また、アーティストの海外での活動を支援する助成団体についてもご紹介いたします。

プレゼンテーション 1：小林史子 (アーティスト)

プレゼンテーション 2：稲垣立男 (アーティスト)

プレゼンテーション 3：吉野律 (Asian Cultural Council シニアプログラムオフィサー)

*各プレゼンテーションの後に、参加者を交えたディスカッションの時間を設けます。

16:00 - 18:30

Part 2 「アーティスト・ランの AIR」 (マイクロ・レジデンシー)

AIR を自ら運営しているアーティストが、作家として制作環境を作り出し、維持することや、制作場所の共有を通じた作家同士の交流や協働などについて語り合います。

プレゼンテーション 4：Shih Yun Yeo (INSTINC ディレクター | シンガポール)

プレゼンテーション 5：松崎宏史 (Studio Kura ディレクター | 福岡)

スタジオトーク：Stina Fisch (遊工房アトスペース滞在アーティスト | ルクセンブルク)

*各プレゼンテーションの後に、参加者を交えたディスカッションの時間を設けます。

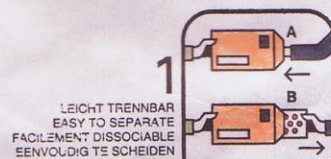
*Part 2 終了後、カジュアルな交流会を予定しています。

*12月24日(土)は、マイクロ・レジデンシーに該当する AIR のネットワーク会議を行います。会議は非公開となっておりますが、関心のある方は傍聴が可能です。なお、会議は英語のみで行ないます。

主催：遊工房アトスペース

助成：平成 23 年度文化庁文化芸術の海外発信拠点形成事業、EU・ジャパンフェスト日本委員会

協力：Asian Cultural Council、ルクセンブルク大使館



平成 23 年度文化庁
文化芸術の海外発信拠点形成事業

EU
JAPAN
fest



遊工房アトスペース 10 周年記念

AIRs vol. 2 アーティスト・イン・レジデンスのほんとうのはなし

主催：遊工房アトスペース

助成：平成 23 年度文化庁文化芸術の海外発信拠点形成事業、EU・ジャパンフェスト日本委員会

協力：Asian Cultural Council、ルクセンブルク大公国大使館

日程

DAY 1： 2011 年 12 月 23 日（金・祝）

13:00-18:30

DAY 2： 2011 年 12 月 24 日（土） 16:00-

19:00

会場

遊工房アトスペース



DAY 1（一般公開フォーラム）

Part 1 「AIRに参加する」

アーティストが自らの AIR 滞在経験を、今後 AIR への参加を考えているアーティストと共有するフォーラム。今回は、小林史子と稲垣立男が参加した海外の AIR を紹介した。小林は Hweilan International Artists Workshop（台湾）、KHOJ KOLKATA（インド）、GERTRUDE CONTEMPORARY ART SPACES（オーストラリア）、Stiftung Künstlerdorf Schöppingen（ドイツ）等、海外での滞在制作の経験が豊富だが、日本という活動拠点を維持しながら、海外の AIR や展覧会に参加するというキャリア形成のスタイルを例示した。稲垣はロンドン大学ロイヤルホロウェイ校（英国）、Nordic Artists' Centre in Dale（ノルウェー）、18th Street Arts Center（米国）、国際芸術センター青森、Grizedale Arts（英国）、Compeung（タイ）といった AIR に参加しているが、現地のコミュニティと関わることで制作のプロセスの一部となっているため、キャリアにおいて作品と AIR 滞在が強く結びついている事例を紹介した。また、Asian Cultural Council の吉野律は、アーティストの海外 AIR 滞在を支援する助成団体の立場から、助成プログラムの内容と目的について説明した。アーティストが海外に一時的な生活・制作拠点を構えることで思考をより深め、社会とのネットワークを築くとともに、次のキャリアステップへのモチベーションにもつながると話した。

Part 2 「アーティスト・ランの AIR」（マイクロレジデンス）

AIR を自ら運営しているアーティストであるシーユン・ヨー（INSTINC、シンガポール）と松崎宏史（Studio Kura、福岡）は、それぞれが関わる AIR を紹介した。同一のアーティストを双方でホストする交流プログラムも開始しており、アーティストが制作環境を整えるうえで、AIR という活動形態を取り込み、アーティストとの交流やネットワーク形成に活用している事例となった。

フォーラムの後には、遊工房アートのスペースの施設紹介を兼ねて、AIR 滞在中のスティーナ・フィッシュがスタジオを公開して活動の中間報告をした。ギャラリーでは、年明けの個展に向けて作業中の松本恭吾が現場を公開するとともに、2011 年に遊工房のネットワークを活用してフィンランドの AIR 「Art Break」に滞在した際に撮影したビデオも発表した。

DAY 2（非公開ネットワーク会議）

シンガポール、ベトナム、福岡、東京でマイクロレジデンスに該当する AIR の関係者が集まり、マイクロレジデンスを運営する経験、または各地のマイクロレジデンスをつなぐネットワークを構築する可能性について意見交換を行った。会議には村田達彦・弘子（遊工房アートのスペース共同代表）、シーユン・ヨー（INSTINC 代表、シンガポール）、松崎宏史（Studio Kura 代表、福岡）、そして Skype 経由でリン・フォン・グエン（Nha San Studio 代表、ベトナム）が出席した。

はじめに、遊工房アートのスペースで行ったマイクロレジデンス調査の概要報告があり、様々な AIR の活動状況に関する情報や、分析から見えてきた特徴を共有することで、ネットワーク形成の可能性の議論へつなげた。（註）

ネットワーク会議前半では、それぞれの参加者が自身の AIR プログラムについて、設立の動機、背景や運営組織の構成を含めて紹介し、各々の立場からマイクロレジデンスの重要性に対して意見を共有した。後半では、ネットワークのメンバーの相互利益と小規模レジデンスの存在の可視化を目指して、マイクロレジデンス・ネットワークの効果的かつ現実的な組織構成について議論した。マイクロレジデンスの重要な役割は、規模の大きなレジデンスに見落とされがちな、若くて経験の浅いアーティストにも実験できるスペースを提供し、アーティストのニーズに柔軟に対応し、長期的な関係性を作ることにあるということが確認された。更に、このような目的で情報、資源、アドバイスを共有し、コラボレーションと文化交流を促進できるようなプラットフォームの在り方について、具体的な提案を検討した。

ネットワークの構造については様々な意見が挙がったが、それぞれのメンバーがネットワークの発展に対して責任を持つように分散的なネットワークに合意が見られた。将来的にはホームページの開設も視野に入れて、Facebook、Ustream 等の SNS を活用した継続的な意見交換の仕組み作りの提案があった。更に、アーティスト・データベースの作成やキュレーターや評論家とのつながりを共有すること、またコラボレーションとして巡回展やアーティスト交流プログラムを企画する案等が議論された。

このディスカッションにより、マイクロレジデンス・ネットワークの方向性がより明確になった。メンバー同士のコミュニケーションが深まり、遊工房、INSTINC、Studio Kura のコラボレーションプロジェクトもより具体化した。2012 年にはマイクロレジデンスのネットワークの可能性をさらに議論する場の実現を図ることになった。

[付録 IV] AIR とマイクロレジデンスの調査研究メンバー

<遊工房アーツスペース>

村田弘子：ディレクター

村田達彦：共同ディレクター

小林めい子：スタッフ 2002~2005/AIRs ほんとうのはなし Vol.1、2005

梶田有理：スタッフ 2004~/中国事情

小寺夕湖：GIP（グローバルインターンシッププログラム）インターン 2007/オランダ事情

ジェイミ・ハンフリーズ：スタッフ 2009~、GIP インターン 2008/イギリス事情

マルタ・グラシア：GIP インターン 2009/スペイン&ラテンアメリカ事情

鈴木慶子：スタッフ 2009~/アジア、カゾビチア事情、AIRs ほんとうのはなし Vol.2、2011

進藤詩子：スタッフ 2011~、GIP インターン 2010/オーストラリア事情

太田エマ：スタッフ 2012~、GIP インターン 2011/アジア事情、調査と分析 2011~

調査協力

ゴルン・オズシェン：建築家/欧州事情 1989~2007

フェリト・オズシェン：アーティスト/欧州事情 1989~

アンティ・イロネン：アーティスト/フィンランド事情 2002~

カイサ・ケララ：環境問題専門家&ArtBreak ディレクター /フィンランド事情 2002~

マリア・テュリング：Trans Artists 会長/世界の事情 2002~

マルレーン・ワインハーデン：アーティスト/オランダ事情 2004~2005

エリザベス・ミード：アーティスト/米国事情 2003

イスクラ・ディミトロヴァ：アーティスト/マケドニア事情 2003

マーガレット・シウ：Bamboo Culture International ディレクター/アジア事情 2005~

ヴァレリー・ジョミニ：デザイナー/スイス事情 2006

スタニスラス・ゼーマーマン：建築家/スイス事情 2006

ルイス・リコーダー&サンドラ・リー・ギブスン：アーティスト/NY 事情 2009

タミコ・オブライエン&マーク・ダンヒル：アーティスト/イギリス事情 2010

石井隆浩：アーティスト/ドイツ事情 2011~

佐々木祥江：デザイナー/西欧事情 2011~

ジュリー・アップメイヤ：アーティスト・Caravansarai ディレクター/イスタンブル事情 2012~

Res Artis

TransArtists

J-AIR ネットワークフォーラム

Intra Asia Network

AIR-J

Trans Cultural Exchange

小さなアートの複合施設から大きな可能性を！
－マイクロレジデンスの調査研究（中間報告）－

“The Macro Possibilities of a Micro Art Space
－ An Interim Report on Microresidence Research”

発行責任：村田達彦

編集：進藤詩子、太田エマ

翻訳：太田エマ、ジェイミー・ハンフリーズ、進藤詩子

発行：遊工房アーツスペース

〒167-0041

東京都杉並区善福寺 3-2-10

電話：03-5930-5009 FAX：03-3399-7549

URL: www.youkobo.co.jp

info@youkobo.co.jp

発行日 2012 年 6 月 30 日

©2012 遊工房アーツスペース

（禁無断転載）

本報告書は、www.youkoboartspace.co.jp から閲覧できます。